

# 南城市観光交通実施計画

令和2年2月

南城市

# 目次

はじめに .....	1
1. 観光交通実施計画の策定の背景と目的 .....	1
2. 計画の位置付け .....	2
3. 計画の期間 .....	2
4. 計画の策定手順と体制 .....	3
<b>第1章 南城市における観光交通の概況 .....</b>	<b>5</b>
1. 1 南城市における関連計画 .....	5
1. 2 関連する官民の動き .....	14
1. 3 南城市観光交通の実態及びニーズ .....	17
<b>第2章 南城市の観光交通の目指すべき方向性・基本方針・施策体系 .....</b>	<b>20</b>
2. 1 南城市の観光交通の目指すべき方向性 .....	20
2. 2 基本方針 .....	21
2. 3 施策体系 .....	22
2. 4 行政・関係団体・事業者・市民の協働 .....	23
<b>第3章 具体的な取組内容と推進体制 .....</b>	<b>24</b>
3. 1 具体的な取組内容 .....	24
3. 2 各主体の取組への関わり .....	41
3. 3 ロードマップ（実施スケジュール） .....	43
3. 4 取組の効果を検証するための指標（KPI） .....	44
3. 5 プロジェクトの推進体制 .....	46

# はじめに

## 1. 観光交通実施計画の策定の背景と目的

南城市は、平成 18 年 1 月 1 日に町村合併を経て誕生し、令和 2 年 1 月に市制 15 年目を迎えました。本市では、平成 29 年度に「第 2 次南城市観光振興計画」を策定し、基本理念「自然・歴史・文化が織りなすハーモニー ～ところとからだの健康・癒し なんじょう～」に基づき、26 の施策と 43 の取組を定め、地域に住む人々が地域資源に誇りを持ち、豊かさを実感できるような持続可能な観光まちづくりを目指した取組を進めています。自然、歴史、文化等の豊かな地域資源を「南城市型エコミュージアム」の推進を通じて磨きあげ、南城市に住む人だけでなく訪れる人も健康になれるまち、「世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城市」に向け、地域コンテンツの創出や受入環境の整備、周遊アクティビティの強化など滞在型観光を促進し、経済効果を高めるための施策に取り組んでいます。

交通分野においては、平成 28 年度に策定した「南城市地域公共交通網形成計画」の基本理念「市民や観光客の移動を支え、促すことで南城市の活性化を図り、新しいまちづくりを先導する自立・持続可能な公共交通体系の構築」に基づき、取組を推進しています。平成 30 年度には「南城市地域公共交通再編実施計画」を策定し、同実施計画に基づき、令和元年 10 月に南城市内の公共交通網の再編が行われました。本公共交通網の再編では、南城市役所庁舎周辺を中核地と位置づけ、市外と市内を結ぶ路線バス網を中核地に集約し、市内と中核地を新たに導入した南城市コミュニティバス「N バス」で結び、幹線と支線の役割を明確にすることで、路線の持続性を確保しつつ、利便性の向上を図ることが企図されています。この再編により、南城市を取り巻く公共交通体系は大きく変化しました。

このような中で、観光交通に目を向けると、沖縄県全体として観光客のレンタカー利用等による観光 2 次交通に関わる課題が顕在化しています。南城市においても訪れる観光客の多くはレンタカーを利用しており、持続可能な観光まちづくりを推進する中では、観光客の過度なレンタカー利用を抑制し、再編により利便性の向上した公共交通を利活用してもらうことが重要となります。また、市民だけではなく、観光客の視点も考慮して公共交通網の再編が行われましたが、地域資源の周遊性を高める取組や**観光客の多様なニーズに対応したさらなる取組**が求められている状況にあります。

そこで、南城市における観光交通を充実化し、**これまで交通等に関する課題により南城市を訪れることができなかった層を呼び込むとともに、多様なニーズに対応したモビリティで南城市観光を楽しんでいただく**ことを目指し、新たに「南城市観光交通実施計画」を策定しました。



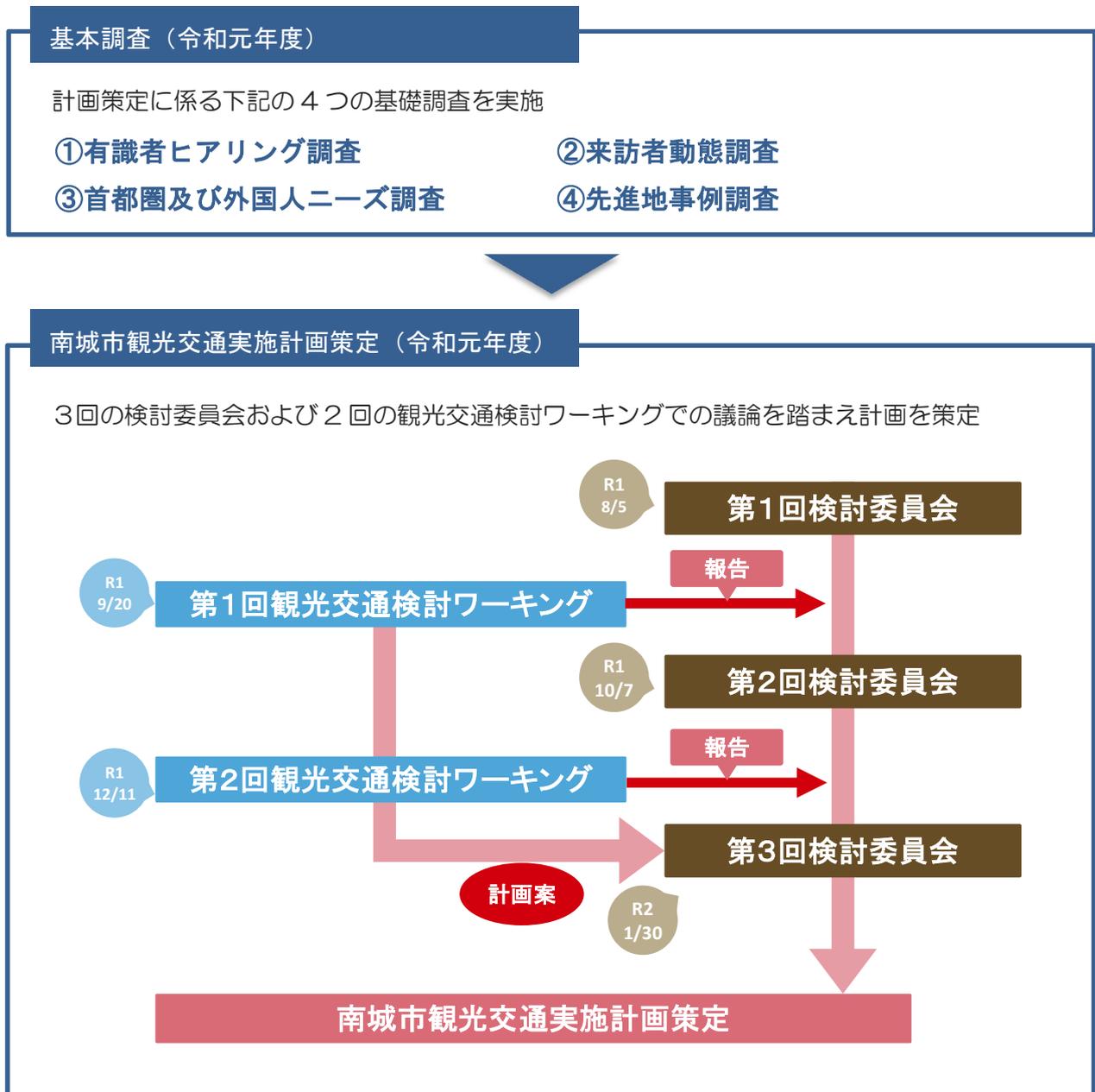
## 4. 計画の策定手順と体制

### (1) 計画策定の手順

本計画は、調査や様々な検討のもとに策定されました。また、有識者による意見や観光客が求めることを的確に捉えたうえで計画を策定するため、「基本調査」を実施するとともに、計画の内容を審議する「南城市観光交通実施計画検討委員会」を組成しました。

第1回・第2回観光交通実施計画検討委員会での議論や、地域関係者で構成される計2回の「観光交通検討ワーキング」での議論・検討をもとに計画案を策定し、第3回観光交通実施計画検討委員会での確認を経て、最終的な「南城市観光交通実施計画」を策定しました。

#### ▼計画策定の流れ



## (2) 計画策定の体制

南城市観光交通実施計画検討委員会では、多様な関係者の意見を反映させるために、学識経験者、有識者、観光協会、宿泊事業者、観光サービス事業者等により組織されました。さらに、南城市観光交通実施計画検討委員会の下部に観光交通検討ワーキングを設け、検討を行いました。

### ▼「南城市観光交通実施計画検討委員会」委員一覧

	所属・役職	氏名
委員長	琉球大学 地域連携推進機構 特命准教授	小島 肇
副委員長	一般社団法人沖縄県サイクルスポーツ振興協会 代表理事	森 豊
委員	バスマップ沖縄 主宰	谷田貝 哲
	一般社団法人南城市観光協会 事務局長	屋我 英樹
	イーストホームタウン沖縄株式会社 代表取締役社長	相澤 和人
	ユインチホテル南城 総支配人	砂川 卓郎
	株式会社ヤブサチ 代表取締役社長	大城 直輝

### ▼「観光交通検討ワーキング」メンバー一覧

	所属	氏名
有識者	一般社団法人沖縄県サイクルスポーツ振興協会	森 豊
	バスマップ沖縄	谷田貝 哲
市内関係団体	一般社団法人南城市観光協会	大城 哲明
	一般社団法人南城市観光協会	安次富 梨乃
市内事業者	株式会社ヤブサチ	大城 直輝
	イーストホームタウン沖縄株式会社	西 悠太
	有限会社 TM.Planning	玉城 堅矢
	株式会社南都	中村 明男
	うみかぜホースファーム	中川 美和子
	ユインチホテル南城	砂川 卓郎
	朝陽の宿 涼風	熊谷 美喜子
	株式会社ストリズム	城間 小巻
	なんじょう地域デザインセンター	秋本 康治
	SEABROTHER	西銘 幸太
	沖縄観光バス株式会社	池原 隆一
	沖縄観光バス株式会社	玉城 安隆
	bazar BonoBo-no	森 美恵子

# 第1章 南城市における観光交通の概況

## 1.1 南城市における関連計画

### (1) 第2次南城市観光振興計画（平成29年度策定）について

本計画の上位計画となる第2次南城市観光振興計画について、概要や観光交通に関連する内容を以下の通り整理しました。

#### 第2次南城市観光振興計画 ～持続可能な観光まちづくりを目指して～（平成29年度）

**【計画期間】** 平成30（2018）年度～令和9（2027）年度

#### **【概要】**

平成19年度に策定した南城市観光振興計画が平成29年度で満了となったことから、基本理念「自然・歴史・文化が織りなすハーモニー ～こころとからだの健康・癒し なんじょう～」に基づき、地域に住む人々が地域資源に誇りを持ち、豊かさを実感できるような持続可能な観光まちづくりを目指すための計画を策定しています。

また、以下の3つの目標を掲げ、26の施策と43の取組を定めています。

- 目標1：市民が誇りや豊かさを実感する観光まちづくりを推進する
- 目標2：南城市の持つ多様な資源を活用し、魅力の強化を図る
- 目標3：南城市の魅力を発信し共感してもらう（＝好きになってもらう）

#### **【観光交通に関連する内容】**

第2次南城市観光振興計画における26の施策のうち、「基本方針7」の「施策24. 二次交通対策」が主に観光交通に関連する内容となっています（次頁赤枠箇所）。

「施策24. 二次交通対策」の取組として、「取組⑳：路線バスおよびデマンドバスの観光活用の検討」「取組㉑：大型駐車場・バスターミナルの活用検討」があります。

## ▼第2次南城市観光振興計画における施策・取組

基本方針1. 市民ひとりひとりが効果を実感でき、参画できる観光まちづくり		基本方針5. 魅力を伝えるプロモーション	
施策1. 市民と事業者・行政の観光意識の醸成	取組1. 広報なんじょうでの市民向けの観光コラム掲載	施策18. 情報発信の強化	取組26. 地元のローカル情報の整理・発信（★）
施策2. 地域主体の観光まちづくりの推進	取組2. 観光まちづくりゆんたく会の定期開催	取組27. 多様な媒体による継続した情報発信（★）	取組28. 海外交流事業による外国人の受入の継続（★）
施策3. 学校教育との連携	取組3. 職体験の拡充・活用	施策19. 海外交流の継続	取組29. 動画等の多言語化
施策4. 市民によるプログラム、市民のためのプログラム	取組4. こどもを対象とした地域文化・芸術体験の推進	施策20. 既存コンテンツの多言語化	
施策5. 推進主体の組成	取組5. 市民向け観光プログラムの構築		
	取組6. 市民による芸術スキル・芸術等の披露の場の創出		
	取組7. 観光盛り上げ隊の組成		
基本方針2. 観光人材の育成		基本方針6. 地域資源の適正利用	
施策6. 観光事業の一端を担う人材を育成	取組8. 観光ガイドの養成（★）	施策21. 資源保全のルール作り	取組30. 資源・地域ごとの保全ルールの明文化
	取組9. リーダー育成（★）		取組31. 倫理的な観光の浸透
施策7. 人材育成の体制構築	取組10. 多言語対応人材の育成（★）		
	取組11. 高校・大学との連携		
施策8. 観光事業立ち上げの支援	取組12. C to Cビジネスの事例モデルの整理		
基本方針3. 観光まちづくり推進体制の強化		基本方針7. 安心・安全、快適な「おもてなし観光地」づくり	
施策9. 観光推進体制の強化	取組13. 観光協会組織の強化	施策22. コア施設の活用	取組32. コア施設を活かした観光振興方策の検討
施策10. DMO化に向けた検討	取組14. 南城版 DMO 組成に向けた検討	施策23. 利便性向上に資するインフラ整備等の推進	取組33. 駐車場から斎場御嶽までの区間の景観形成（★）
施策11. データの積極的な公開	取組15. 観光関連情報のオープンデータ化		取組34. 周辺史跡の駐車場整備（★）
施策12. 新技術等の活用	取組16. AI やIoT を活用したデジタルマーケティングの推進		取組35. 店舗における電子決済の推進
施策13. 南城ファンの獲得	取組17. 南城ファンクラブの創設	施策24. 二次交通対策	取組36. 路線バスおよびデマンドバスの観光活用の検討（★）
施策14. 広域連携	取組18. 周辺地域との広域連携		取組37. 大型駐車場・バスターミナルの活用検討
		施策25. 安心・安全な観光地づくり	取組38. 食のバリアフリー・アレルギー対応の推進（★）
			取組39. 市民への AED、心肺蘇生法の浸透
			取組40. 南城市観光危機対応マニュアルの普及啓発（★）
		施策26. 外国人観光客の受入対応	取組41. 外国人観光客のターゲット設定と滞在モデルの構築
			取組42. 外国人観光客の受入機運の醸成
			取組43. 外国人対応可能団体のネットワーク化
基本方針4. 南城市らしさを活かした体験観光、特産品等の創出と推進			
施策15. 新たな着地型体験プログラムの構築	取組19. 生活文化を活かした着地型観光プログラム（★）		
	取組20. 自然や文化遺産等を活用したプログラム構築（★）		
	取組21. MICE の推進（★）		
	取組22. ナイトツーリズムの推進		
施策16. 滞在型観光の推進	取組23. ウェルネスプログラム拡充		
	取組24. 農泊の推進（★）		
施策17. 特産品の開発	取組25. 特産品の開発（★）		

## ▼観光交通に関連する施策・取組

### 施策24. 二次交通対策

#### 取組36: 路線バスおよびデマンドバスの観光活用の検討

- 平成31年10月に再編が予定される公共交通（路線バス・デマンドバス）の活用を検討します。
- 新路線供用時に観光路線図マップ（仮）を作成すると同時に市内・市外へのプロモーションを実施します。

■関連計画:「南城市地域公共交通網形成計画」では、観光客の路線バス分担率の目標を平成38(2026)年度時点で4.0%に設定（平成28年度時点では2.0%）

#### 取組37: 大型駐車場・バスターミナルの活用検討

- 平成31年度に全面供用開始予定の大型駐車場、平成35(2023)年度供用開始予定のバスターミナルの観光活用を検討します。
- 観光コア施設整備基本計画の枠組みの中で検討を行います。



市民がバスを使うから、観光客がバスを使う！市民が使いやすいバスであるべき！

出典：第2次南城市観光振興計画

## (2) 南城市地域公共交通網形成計画（平成 28 年度策定）について

交通分野において本計画と関連性の高い「南城市地域公共交通網形成計画」について、概要や観光交通に関連する内容を以下の通り整理しました。

### 南城市地域公共交通網形成計画（平成 28 年度）

**【計画期間】** 平成 29（2017）年度～令和 8（2026）年度

#### **【概要】**

この計画では、基本方針「市民や観光客の移動を支え、促すことで南城市の活性化を図り、さらに、新しいまちづくりを先導する自立・持続可能な公共交通体系を構築」に基づき、南部東道路の整備や市役所新庁舎の整備をはじめとする、市内中核地における新たなまちづくりの展開にあわせた、南城市の公共交通のあり方を示しています。また、5つの基本方針から 28 の施策を定めています。

#### **【観光交通に関連する内容】**

南城市地域公共交通網形成計画における基本方針のうち、「基本方針④：再編による効果を高めるため、公共交通の利用環境を充実する」、「基本方針⑤：南城市の活性化に向け、人の流れを活発にする」が主に観光交通に関連した内容となっています。また、基本方針④、基本方針⑤のうち、特に観光交通に関連した施策を以下に示します。

- 施策 4-2. 多言語表示による公共交通情報の提供検討
- 施策 4-3. 公共交通アテンダントの導入検討
- 施策 5-1. 観光客への公共交通に関する情報提供の実施
- 施策 5-2. レンタカーステーションの整備検討
- 施策 5-3. レンタサイクルの導入検討
- 施策 5-4. 遊覧バスの導入検討
- 施策 5-5. 市内 1 日乗車券の導入検討

## ▼南城市地域公共交通網形成計画における施策・取組（赤枠は特に観光交通に関連した施策）

### 基本方針1 中核地を中心に市外へスムーズに移動できる公共交通網を形成する。

目標	施策の方向性	施策
事業者毎に分散しているバスターミナル等を集約し、乗り継ぎ利便性を高める	ハブとなる交通拠点整備	1-1.中核地でのバスターミナルの整備
中核地と那覇市等の市外を公共交通で連絡する	中核地と市外を結ぶ基幹交通の整備	1-2.市外への幹線バスの運行及び既存系統の見直し

### 基本方針2 中核地等での乗り継ぎによりスムーズに市内を移動できる公共交通網を形成する。

目標	施策の方向性	施策
中核地と市内の拠点間のアクセス性を高める	中核地とまちの拠点等を結ぶ支線交通の整備 公共交通機関相互の連携強化	2-1.市内の支線バスの運行 2-2.新たなバス路線網等に対応した乗り継ぎ施設の整備検討 2-3.安座貞船待合所への路線バスの乗り入れ 2-4.幹線バスと支線バスのダイヤの連携

### 基本方針3 誰でも気軽に利用できる身近な移動手段を確保する。

目標	施策の方向性	施策
コミュニティ交通を確保・維持する	コミュニティ交通の確保維持	3-1.「おでかけなんじい」の継続運行 3-2.久高島航路の継続運行
公共交通へのアクセス性を高める	公共交通へのアクセス性を高める取組実施	3-3.公共駐車場でのパーク＆バスライドの実施 3-4.送迎用乗降場の整備検討 3-5.駐輪場の整備検討
市民の公共交通利用を促す	気軽に利用できる運賃設定	3-6.高齢者向け定期券の導入検討 3-7.学生向け定期券の導入検討 3-8.乗り継ぎ割引の導入検討 3-9.市内上限運賃の導入検討

### 基本方針4 再編による効果を高めるため、公共交通の利用環境を充実する。

目標	施策の方向性	施策
公共交通に関する情報提供を充実する	公共交通に関する情報発信の充実	4-1.公共交通運行情報モニターの導入検討 4-2.多言語表示による公共交通情報の提供検討 4-3.公共交通アテンダントの導入検討
交通施設の快適性を高める	ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備	4-4.ハイグレードバス停の整備検討 4-5.快適な待合施設の整備検討

### 基本方針5 南城市の活性化に向け、人の流れを活発にする。

目標	施策の方向性	施策
公共交通利用の観光客の回遊性を高める	回遊性を高める移動手段の導入	5-1.観光客への公共交通に関する情報提供の実施 5-2.レンタカーステーションの整備検討 5-3.レンタサイクルの導入検討 5-4.遊覧バスの導入検討 5-5.市内1日乗車券の導入検討
公共交通利用の需要を喚起する。	公共交通の利用呼びかけ	5-6.モビリティ・マネジメントの実施 5-7.イベント等の実施検討 5-8.車両等の魅力向上策の実施検討

## ▼観光交通に関連する施策の概要

#### 施策 4-2.多言語表示による公共交通情報の提供

**施策目標** 公共交通に関する情報提供を充実する。  
**施策の概要** 外国人の公共交通利用を支援するため、多言語表示による案内サインの設置や、サイトの整備を検討する。

#### 施策 5-1.観光客への公共交通に関する情報提供の実施

**施策目標** 公共交通利用の観光客の回遊性を高める。  
**施策の概要** 観光客の南城市内での回遊を支援するため、観光客向けに公共交通の情報提供を実施する。

#### 施策 5-3.レンタサイクルの導入検討

**施策目標** 公共交通利用の観光客の回遊性を高める。  
**施策の概要** 中核地から、市内各地への観光客の移動利便性を高めるため、バスターミナルをはじめ、市内の主要観光地等にレンタサイクル貸渡所の整備を検討する。

#### 施策 5-5.市内1日乗車券の導入検討

**施策目標** 公共交通利用の観光客の回遊性を高める。  
**施策の概要** 観光客や来訪者、市民の市内での回遊利便性を高めるため、市内1日乗車券の導入を検討する。

#### 施策 4-3.公共交通アテンダントの導入検討

**施策目標** 公共交通に関する情報提供を充実する。  
**施策の概要** 人による丁寧な案内や、観光案内の他、高齢者等への乗降のお手伝いなど公共交通利用者におもてなしの心で対応し、公共交通の利用を促進するため、交通アテンダントの導入を検討する。

#### 施策 5-2.レンタカーステーションの整備検討

**施策目標** 公共交通利用の観光客の回遊性を高める。  
**施策の概要** 観光客の南城市での回遊利便性の向上と、観光客の誘致を図るため、バスターミナルに近接してレンタカーステーションの整備を検討する。

#### 施策 5-4.遊覧バスの導入検討

**施策目標** 公共交通利用の観光客の回遊性を高める。  
**施策の概要** 観光客向けの回遊手段として、中核地を起点に、市内の主要観光地を周遊する遊覧バスの導入を検討する。遊覧バスにアテンダントを乗車させ、観光案内等の実施もあわせて検討する。

出典：南城市地域公共交通網形成計画

### (3) 南城市地域公共交通再編実施計画（平成 30 年度策定）について

南城市における公共交通の再編（令和元年 10 月）について具体的な内容を検討した「南城市地域公共交通再編実施計画」の概要を以下の通り整理しました。

#### 南城市地域公共交通再編実施計画（平成 30 年度）

**【計画期間】** 令和元年（2019）年度～令和 8（2026）年度

#### **【概要】**

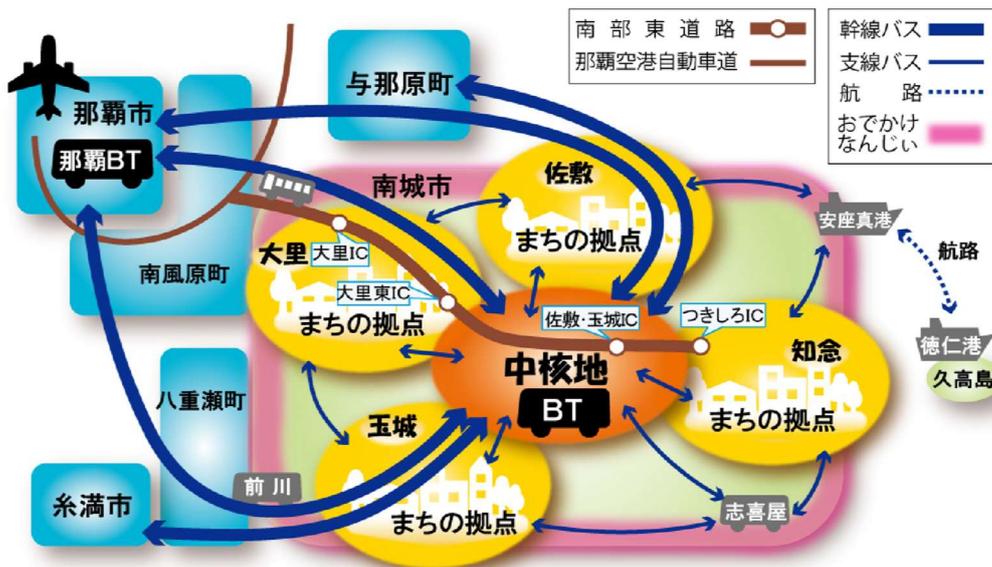
南城市地域公共交通網形成計画で示されている、令和元年 10 月の再編のイメージが実現できるよう、具体的な取組を検討しています。

再編後のイメージについて、「IC 周辺の新しい拠点である中核地を核に公共交通網を形成」、「中核地と那覇市等の市外を幹線バスで結ぶ」、「市内でも一定の需要が見込める中核地～まちの拠点間等は支線バスを運行」、「支線バスでの対応が難しいエリアの移動はおでかけなんじい担う」としています。

また、この計画では、5 つの考え方を基に、具体的な取組の検討がされています。

- 考え方①：幹線バス・支線バス・デマンドバスの役割分担の明確化
- 考え方②：幹線バスと支線バスの連携
- 考え方③：交通弱者の移動需要への対応
- 考え方④：周遊利便性の向上
- 考え方⑤：運行効率化
- 考え方⑥：利用しやすい料金体系の導入

▼公共交通網再編後の概念図



出典：南城市地域公共交通再編実施計画

▼公共交通網再編後のバスの路線網 (Nバスマップ)



出典：南城市公式 WEB サイト

## (4) 南城型エコミュージアム実施計画について

南城型エコミュージアム実施計画について、概要や観光交通に関連する内容を以下の通り整理しました。

### 南城型エコミュージアム実施計画（平成 28 年度～平成 30 年度）

#### 【概要】

既存のエコミュージアムの概念を活用しながら観光まちづくりを行っていくための実施計画となっています。

この計画では、目標「地域の価値を育み、人々がめぐり会う魅力あふれる観光まちづくり」を掲げて、以下の 4 つの方針を示しています。

- 方針 1：住民の主体的な資源管理の促進
- 方針 2：魅力的な着地型観光の推進と観光客の誘客
- 方針 3：回遊と交流を促す仕組みづくり
- 方針 4：関連事業を包括し、相乗効果を図る

#### 【観光交通に関連する内容】

南城型エコミュージアム実施計画における方針のうち、「方針 3：回遊と交流を促す仕組みづくり」が主に観光交通に関連した内容となっています（下図赤枠箇所）。

#### ▼南城型エコミュージアム実施計画における方針

##### 方針1 住民の主体的な資源管理の促進

- ・人々が歴史的に受け継いできた南城市の自然や文化、生活様式や伝統などを次世代へと継承していくためには、住民自身の資源との関わりを深める必要がある。
- ・住民が地域の魅力や価値に改めて気づき、自らが主体となって資源の維持・管理を行ったり、魅力を伝える活動を促す。

##### 方針2 魅力的な着地型観光の推進と観光客の誘客

- ・地域ならではの観光体験を提供する着地型観光をすすめ、観光客のより深い地域への理解を促す。
- ・地域の何気ない日常生活や受け継がれた文化に価値を見出し、観光客を魅きつけるプログラムや商品を創出することで、観光客の誘客を図る。
- ・観光という手段をとおして地域にお金が落ちる仕組みをつくり、地域振興を図る。

##### 方針3 回遊と交流を促す仕組みづくり

- ・観光客の市内の滞在を促すためにも、市内に点在する多様な要素どうしを様々なテーマで結びつけ、組み合わせることで、人々が回遊する仕組みを生み出す。
- ・観光客が地域をめぐるなかで住民と出会い、交流が生まれるような仕組みづくりを行う。
- ・観光客の目的地への円滑な誘導を図るべく、地域内外において活発な情報発信を行う。

##### 方針4 関連事業を包括し、相乗効果を図る

- ・これまで市の様々なセクションにおいて実施してきた、歴史や文化、産業、地域振興にかかわる事業をエコミュージアムで包括し、体制面や事業内容について連携を図ることで事業の相乗効果を高める。
- ・市内各地で実施されている既存のイベントとの親和性を持たせ、付加価値を高める。

出典：南城型エコミュージアム実施計画

また、南城型エコミュージアムでは、エコミュージアムの各々のゾーニング（コア、サテライト、資源等）をネットワークする概念を「ディスカバリートレイル」と捉えており、南城型エコミュージアム実施計画のなかで、以下の2つの側面より「南城型のディスカバリートレイル」の位置づけを行っています。

- ①思想としてのディスカバリートレイル
- ②商品としてのディスカバリートレイル

#### ▼南城型のディスカバリートレイルの位置づけ

<b>1)思想としてのディスカバリートレイル</b>
<b>コンセプト①</b>
<b>南城市に深入りするためのダイナミックストーリー</b>
市内を大きく回遊しながらエコミュージアムの全体像がわかり、南城市にしかない魅力を体感できる大きなストーリーを描く。歴史の再発見と伝承、そして市民のアイデンティティの確立に結びつくことが望ましいが、一方で歴史に興味がない利用者に対しては、「南」の旅情を呼び起こすような誘導や、ガイドのストーリーテリングでライブ感を出すことを行う。また、市民発案で新しいトレイルが派生的にできていくような環境づくりを進める。
<b>コンセプト②</b>
<b>人と人がふれあい、元気を分かち合う</b>
資源を結ぶだけでなく、人(市民)と人(観光客)が出会えるきっかけとして機能させる。めざすのは、人のつながりでツーリズムを超えていく取組である。南城市の日常風景が各資源のバックグラウンドとしてあり、そこに観光客が入り込むことによって、市民生活が活性化されるし、観光客も一回性(唯一無二)の体験が得られる。そのため結び合わせ役のガイドやコンシェルジュのような人材を積極的に登用する。
<b>2)商品としてのディスカバリートレイル</b>
<b>コンセプト①</b>
<b>移動経路に価値を与える</b>
トレイルに地域の哲学や暮らしの解説等を込める。昔の資源だけでなく、畑仕事や地域の商店、オープンガーデン等で現代を生きる人々とふれあえる仕組みをつくる。そのためガイドランスを鍛える。また、トレイルを歩きながら、事前の知識と目の前のもののつながったときの「あ！」という小さな発見を大事にする。当時の面影を連想させるため、景観やハード資源、民俗を保全したり復活させたりして、いつまでも変わらない沖縄の風景と息吹を感じることができるようにする。
<b>コンセプト②</b>
<b>「歩くことで社会貢献する」という価値づけ</b>
トレイルの体験が地域内の各種店舗やサービスの利用につながるように、地域にお金落ちる仕組みと、それを運営する地元体制を整える。基本的には、サテライト同士の資源を結ぶ中距離のトレイルとし、セルフでもガイドでもどちらでも歩けるようにする。小谷まーいのような集落内の散策ルートは、住民ガイドが案内し対価を得られるようにする。また、歩きたくなるようにアレンジされたトレイル地図を販売して、セルフウォーク客も地域経済に貢献できるようにする。

出典：南城型エコミュージアム実施計画（各論1）

さらに、南城型ディスカバリートレイルを設定するうえで、南城市内でトレイルとしての設定が有望な道路パターンと移動パターンについて整理されています。

### ▼南城市内の道路パターン

自転車道路:	南城市玉城前川と那覇市首里当蔵町の首里城までを結ぶ、一般県道玉城那覇自転車道路が通っている。沖縄唯一の自転車道でサイクリストには人気があり、市内ルートはよく活用されており、エコミュージアムの移動経路としても有効である。計画距離は33.5kmとなっている。
眺望のよい道路(グスクロード、夜明が丘線、ニライカナイ橋):	丘陵地の多い南城市には、高台で展望のよい道も多い。特にニライカナイ橋は有名で、目的地の一つとして目指してくる観光客も少なくない。こうした展望のよい道もトレイルとしては非常に魅力的である。
歴史の道・旧道:	小谷ジャンクピリ道をはじめ、各集落には昔から使っていた道が残り、実際に歩くと人間の感覚で整備されたことを感じることができる。しかし、その多くは草に埋もれており、トレイルとして活用するには、「物語(道の由来等)」の発掘とともに、補修等の整備をする必要がある。

### ▼南城市内の移動パターン

デマンドバス:	南城市では、市民と市内を訪れる観光客を対象に、予約をすれば1人1台で1人一律300円で活用できるデマンドバス(なんじいバス)を運行している。例えば、ロングウォークの始点と終点でなんじいバスを活用するなどの可能性がある。(※)
公共バス:	南城市内はバスの本数が少ないため、移動手段としてはあまり便利とは言えない。しかし、全国にはバス旅で地域の人との交流を楽しむバスマニアがいる。南城市のライブな日常感覚を感じてもらうためには、トレイルの移動手段として有効だと考えられる。
タクシー:	沖縄県は、ちゅら島沖縄観光タクシー(沖縄観光タクシー乗務員資格認定制度)として、沖縄を訪れる観光客に、あたたかい沖縄の心による接客と、深い観光知識を有するガイドが得られる制度を設けている。
レンタカー:	市内観光はレンタカー比率が約53%と多数を占める(観光客に絞れば率は上がる)。一方、観光地を中心に車の増加による生活への影響や駐車場の不足などが問題視されている。コア施設と大駐車場でレンタカーの送迎・受取サービスが検討されているので、これと連携する。
カーシェアリング:	トヨタは超小型EV「COMS」を利用したHamo(車と公共交通を最適につなぎ、地域の交通課題解決をサポート)に取り組んでいる。東京ではTimes Car PLUSがHamoと連携してカーシェアリングを実施しており、沖縄でも実証実験に続く事業化が期待されている。
レンタサイクル:	周遊観光の促進と環境に優しい観光地づくりを目指して、電動アシスト付き自転車によるレンタサイクルがある。これにより南城市内の自転車道を活用し、観光スポットを巡りながらゆっくりと移動することができる。南城市観光協会でもレンタサイクルの貸出をしている。
徒歩、ランニング:	朝・夕など涼しい時間帯にウォーキングやランニングの姿をみかけることが多い。市内は比較的どこでも歩きやすく、地域の景観を楽しむことができる。トレイルは基本的には、歩く視点での発見を促したいところである。
与那国馬(ヨナグニウマ):	親慶原にある「うみかぜホースファーム」のサービスと連携して、乗馬や馬車によるトレイル散策が検討される。与那国馬は主に農耕馬として利用されてきたため、小さいが力持ちで、気性も穏やかなのでリスクは比較的小さい。

※ 平成28年度時点の内容となっているため、デマンドバスの料金は1人一律300円となっています。

令和2年時点では、以下の料金となっています。

■料金: 1人一律500円(未就学児無料、市民75歳以上は200円)

出典: 南城型エコミュージアム実施計画

## 1. 2 関連する官民の動き

その他県内や市内の関連する取組について、内容を以下に示します。

### 沖縄県全域を対象とした観光 2 次交通オープンデータの整備

(一般社団法人沖縄オープンラボトリ)

平成 30 年度より沖縄県内全域の路線バス、コミュニティバス、離島船舶などの公共交通情報、および地域の保有する観光情報を対象に Google 等へ大手検索サイトや経路検索サービスがデータを取り込みやすい形式でのオープンデータ整備が進められています。

本データ整備の成果として、令和元年 8 月に県内の観光 2 次交通に関するオープンデータを提供するプラットフォームとして「Okinawa Transit and Tourism Opendata Platform (OTTOP)」が立ち上がりとともに、令和元年度内に沖縄県内全域で路線バス、コミュニティバス、船舶等の Google マップでの経路検索が可能となる見込みです。

#### ▼沖縄観光 2 次交通オープンデータプラットフォーム (OTTOP)



出典：Okinawa Transit and Tourism Opendata Platform (<https://www.ottop.databed.org/>)

### 南城市におけるウェルネス事業

南城市ウェルネス事業は平成 22 年度よりスタートし、官民連携で様々なウェルネスプログラムを創出してきました。ヨガ、温泉、ハーブ、聖地ウォーキングなど、豊かな地域資源を活かして、南城市に住む人も、南城市を訪れる人も、みんなが健康になれるまちを目指し、ウェルネスな観光まちづくりを目指し取り組んでいます。

#### ▼ウェルネスプログラムの例



出典：南城市観光ポータルサイト「らしいね南城市」

## 公共交通アテンダントの配置（南城市 企画部 企画課）

令和元年 10 月より、交通結節点（南城市役所）に案内人（アテンダント）を配置し、公共交通の乗換および観光案内等を実施しています。

案内所やバス乗り場付近にて、バスの利用者に対して以下の案内等を実施しています。

- 路線バス・コミュニティバスの乗り継ぎ案内
- 運賃・時刻・経路等の案内
- 公共交通での移動を伴う観光地等の目的地案内
- 関連情報の提供・配布 等

その他に、イベント等における公共交通の PR や乗り方教室、ラッピングバスなど利用促進に資する取組を実施しています。

### ▼アテンダントによる案内の様子



### ▼ラッピングバスの様子



## バスロケーションサービス・公共交通情報の提供（南城市 企画部 情報推進課）

南城市の公共交通再編後に、混乱のない公共交通利用につなげること、再編をきっかけとした公共交通利用促進を図ること等を目的に、市民や市外からの利用者に対して、再編後における交通運行の情報などを提供するためのシステム構築を行い、利用者が容易に必要な情報を得られる環境整備に取り組んでいます。主な取組内容は、以下の通りです。

- 主要拠点（南城市役所、安座真港、がんじゅう駅・南城、ユインチホテル南城）でのサイネージによる時刻情報等の提供
- スマートフォン等によるバスの位置情報の配信
- コミュニティバス車内でのサイネージの設置（広告等の表示）
- 船舶情報の配信（欠航の情報等をサイネージ等でも提供）

### ▼サイネージの設置（南城市役所）



### ▼サイネージの案内内容（がんじゅう駅）

A photograph of a digital display showing bus information. The display is titled "バス運行情報 Bus Information" and shows a table of bus routes and their arrival times. The table includes columns for route names, bus numbers, and arrival times. The routes listed are "ニライカナイ橋・つきしろ線" and "知念・佐敷一周線". The arrival times shown are 16:43 and 17:16. There is also a map of the area and some additional information on the right side of the display.

路線	バス番号	時刻
ニライカナイ橋・つきしろ線	515	約50分
知念・佐敷一周線	A1右	約27分
知念・佐敷一周線	A2左	約45分
ニライカナイ橋・つきしろ線	515	16:43
知念・佐敷一周線	A1右	17:16

※現在、運行情報は定刻通りの表示となっております。実際の状況とは異なる場合がございます。

## 南城市の観光振興に向けたオンデマンド交通と小型モビリティ等を活用した観光型 MaaS\*の実証実験

(南城市、NEC ソリューションイノベータ、りゅうにちホールディングス、沖東交通、NearMe、ギフトィ)

南城市内の点在する観光資源を線で結び、様々な交通機関を組み合わせた面での交通ネットワークを創出し、南城市の観光振興および地域の活性化を目的に、観光型 MaaS の実証実験が実施される予定です(期間：令和2年2月21日～3月22日)。

ジャンボタクシーによるオンデマンド交通を利用し、那覇空港や那覇市中心部から南城市への移動、小型モビリティや南城市内の公共交通(Nバスやオンデマンドサービス「おでかけなんじい」)を利用した南城市内の周遊に、南城市内の観光体験等を組み合わせたサービスとなっています。

▼実証実験のイメージ図



出典：NEC ソリューションイノベータ プレスリリース資料

※MaaS (マース：Mobility as a Service) とは

出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念。

出典：国土交通省 WEB サイト

## 1. 3 南城市観光交通の実態及びニーズ

本計画では、南城市の観光交通の現状を的確に捉えたうえで、これからの観光交通の方向性を決めることが重要であると考え、公共交通の利用意向や観光交通に関する要望などを把握するため、「来訪者動態調査」や「首都圏及び外国人ニーズ調査」を実施し、南城市における観光交通の実態及びニーズを整理しました。

### (1) 調査の概要

#### ▼観光交通の実態に関する調査内容

##### ○来訪者動態調査（令和元年9月）

- 調査方法：南城市内の宿泊施設や飲食施設および立ち寄り施設において聞き取り調査を実施
- 目的：日本人／外国人観光客の行動実態、公共交通の利用意向、観光交通に関する要望を把握

##### ○首都圏及び外国人ニーズ調査（令和元年12月・令和2年1月）

- 調査方法：県外出身者や海外出身者等に公共交通を利用して南城市内を周遊してもらい、周遊後に聞き取り調査を実施
- 目的：公共交通再編後の観光交通に関するニーズや課題・改善点を把握

### (2) 南城市における観光交通の実態及びニーズ

#### ◀観光客の南城市への交通手段▶（来訪者動態調査より）

- 南城市内を訪れる日本人観光客のうち、県外客については8割がレンタカーを利用している。また、外国人観光客についても、7割がレンタカーを利用している。
- 路線バスの利用は、日本人観光客（県外客）、外国人観光客ともに5%となっている。

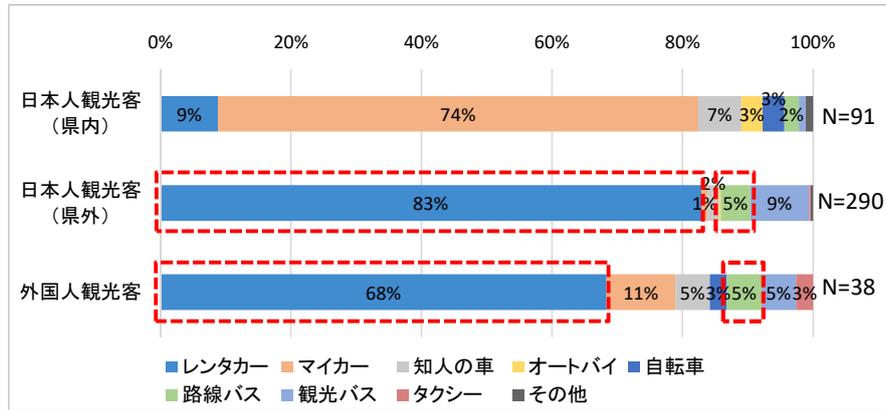
#### ◀観光客の公共交通の利用意向▶（来訪者動態調査より）

- 次回南城市を観光する際の交通手段について、レンタカー利用者の中に、「もし公共交通の利便性が高く、情報がわかりやすければ利用したい」という意向がみられた。特に、外国人観光客において顕著な傾向がみられた。

#### ◀観光交通に対するニーズ▶（来訪者動態調査・ニーズ調査より）

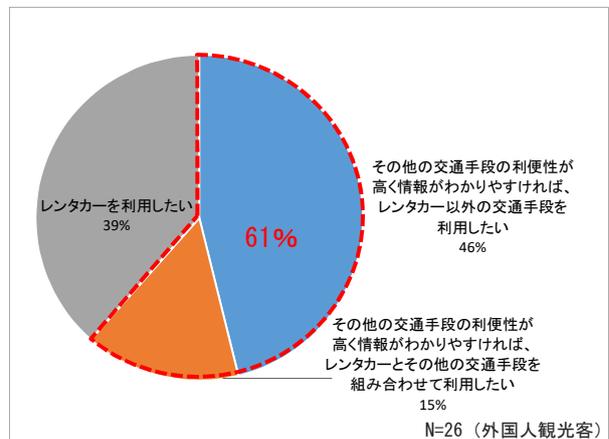
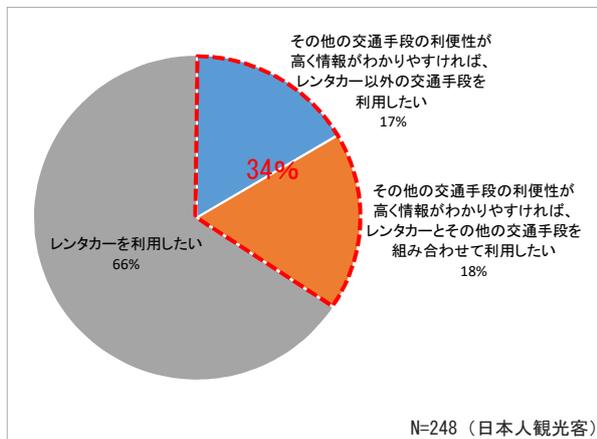
- 公共交通を利用した観光を促進するうえで必要な取組・整備として、「斎場御嶽やおきなわワールドなど南城市内の観光地間を結ぶ交通の導入」や「那覇空港から南城市内までの直通交通などアクセス利便性の向上」など、市内における観光地間の移動、市外の交通拠点（那覇空港）や市外の観光地とのアクセス利便性の向上に関する要望がみられた。
- 東エリア（斎場御嶽、新原ビーチ）と西エリア（おきなわワールド、奥武島）のコミュニティバスによる移動に乗り継ぎが必要なため、コミュニティバスを繋ぐ交通モード（レンタサイクルなど）の導入に関する要望がみられた。
- 路線バスや自転車などによる観光地への行き方や時刻などのわかりやすい情報、バス停の位置情報やバス停周辺の案内情報の整備に関する要望がみられた。

▼観光客の南城市への交通手段



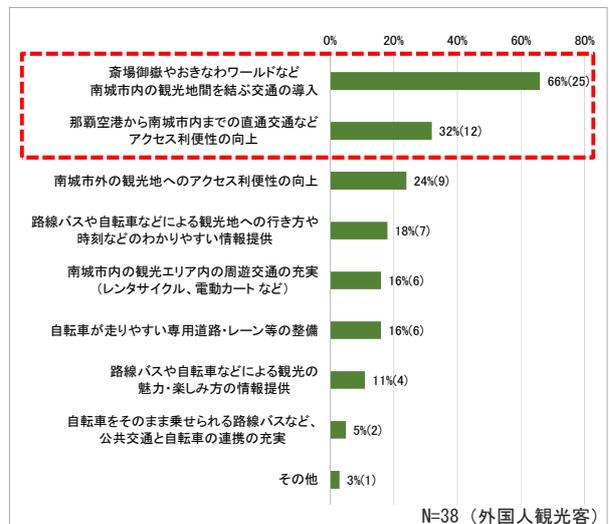
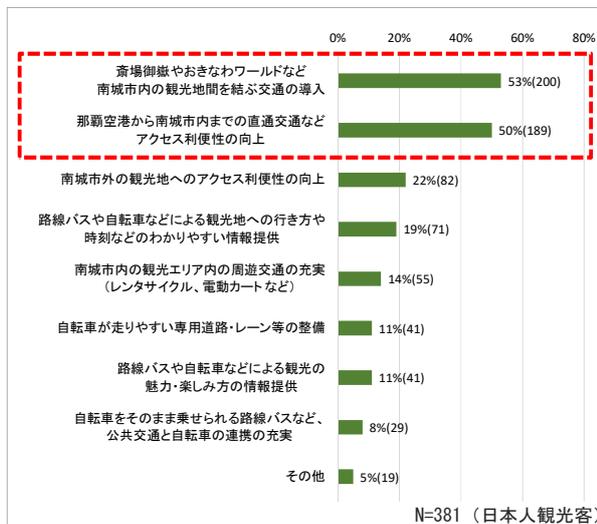
出典：来訪者動態調査（令和元年9月実施）

▼レンタカーを利用した観光客の公共交通の利用意向（次回南城市を観光する際の交通手段について）



出典：来訪者動態調査（令和元年9月実施）

▼レンタカー以外の交通手段を利用した観光を促進する上で必要な取組や整備



出典：来訪者動態調査（令和元年9月実施）

### (3) 南城市における観光交通の課題

市内の観光交通に関わるこれまでの取組や、「計画策定に係る基礎調査」の結果を踏まえ、以下のとおり南城市の観光交通における取組課題として整理しました。

#### ▼南城市における観光交通の取組課題

##### 課題① レンタカー観光から公共交通等を利用した観光への転換

レンタカー観光への過度な偏りは、事故や混雑、住民生活への影響、通過型観光の促進など様々な悪影響の要因となるため、公共交通を利用した観光への転換を図る必要がある。

##### 課題② 観光客の移動手段に関するニーズへの対応

令和元年10月の公共交通再編により、南城市における公共交通のサービスレベルは向上しているが、観光客に利用しやすくする視点からサービスの改善や拡充を図る必要がある。また、観光客の移動ニーズを踏まえ、既存の公共交通網を補完する交通手段の導入等について検討する必要がある。

##### 課題③ 公共交通等に関する情報の見える化

観光客が公共交通等を利用する上でわかりやすい情報提供を実施する必要がある。

##### 課題④ 公共交通利用による南城観光の魅力を伝える取組の実施

公共交通等を利用した南城観光の魅力や楽しみ方を観光客に向けて発信する必要がある。

## 第2章 南城市の観光交通の目指すべき方向性・基本方針・施策体系

### 2. 1 南城市の観光交通の目指すべき方向性

#### (1) 前提

南城市の魅力は、滞在型で楽しんでもらってこそ伝わるものであり、そのような志向のターゲットを呼び込み、リピーター・ファンが増えることで、持続可能な観光まちづくりが促進されます。

滞在型の観光を推進するためには、斎場御嶽やおきなわワールド等の主要観光地に加えて、各地域の自然、歴史、文化等を踏まえた魅力的なコンテンツづくり、すなわち南城型エコミュージアムを推進し、周遊できる観光スポットを増やす視点が重要となります。その上で、点在する魅力ある資源を広く・深く・ゆったりと周遊し、楽しんでもらえるような観光交通を、南城型エコミュージアムの取組と連携し、構築していく必要があります。

また、南城市を訪れる観光客の大半がレンタカーを利用しており、公共交通がほとんど利用されていない現状は、南城市の目指すべき観光振興の方向性（南城らしさ）と合っていません。そのため、観光客にレンタカー以外の交通手段を選択肢としてもっていただけるよう取り組む必要があります。

#### (2) 南城市が目指すべき観光交通の方向性（ビジョン）

南城市が目指すべき観光交通の方向性（ビジョン）を以下のとおり掲げます。

##### 《目指すべき方向性（ビジョン）》

**「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」を目指した多様なモビリティの実現**

観光客に暮らすような旅を楽しんでもらうために、細やかな対応をして、多様なニーズにあったモビリティを導入します。また、モビリティ間の連携により、市外からのアクセスや市内の周遊観光に必要な交通を確保します。

さらに、南城市が目指している「世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート」の実現に向け、自然や食、伝統文化、人々とふれあうことによって、観光客が輝くための「気づき」を与える旅づくりを促進する観光交通を整備します。

## 2. 2 基本方針

本計画の目指すべき方向性を実現するための5つの基本方針を以下のとおり整理しました。

基本方針	<b>1 使う</b>	今ある公共交通等を観光客が快適に利用するために必要な改善、サービスの拡充、環境整備を進めます。その前提として、 <u>市民、事業者、行政にも意識醸成</u> を図るとともに、観光客の視点に立ち、クルマ以外での移動を <u>自分ごととしてできる範囲で実践</u> してもらいます。
基本方針	<b>2 創る</b>	滞在型の観光を促進し、点在する魅力ある資源を周遊・回遊するための <u>新たな観光交通を導入</u> します。持続可能な観光まちづくり、世界水準のウェルネス・カルチャーリゾートなど南城市の観光振興を支えます。
基本方針	<b>3 併せる</b>	観光と交通がセットになった商品やサービス等を開発します。 <u>最新のICT技術を積極的に取り込み、ストレスフリーでシームレスな観光と交通のパッケージ化</u> を推進します。
基本方針	<b>4 魅せる</b>	観光交通に関する <u>情報の見える化</u> を推進するとともに、 <u>公共交通や自転車ならではの南城観光の楽しみ方</u> やレンタカーでは体験できない南城観光の魅力を発信します。
基本方針	<b>5 続ける</b>	観光交通の利用実態やニーズを把握するための <u>継続的な調査</u> を実施します。また多様なニーズに対応した <u>モビリティをオペレーションする体制</u> を構築します。

また、取組を進める上での4つの視点（取組全般を通じた配慮事項）を以下のとおり整理しました。

視点	<b>1 南城ツーリズムへの寄与</b>	持続可能な観光まちづくり、世界水準のウェルネス・カルチャーリゾートの実現、エコミュージアムの推進など南城のツーリズムを促進する施策を展開します。滞在型の観光を促進し、自然・歴史・文化など南城の良さを体感してもらうための取組を実施します。
視点	<b>2 まちづくりとの連携</b>	取組全般を通じて、市民生活も便利に快適になるようまちづくりと連携して取組を実施します。また、市民の市内でのおでかけや観光の促進に寄与する施策を展開します。
視点	<b>3 ICTの利活用</b>	AIやIoT、デジタルマーケティングといったICTの進化を踏まえ、取組全般を通じてICTを積極的に利活用します。一方で、観光には人と人とのふれあいも重要であり、紙媒体や現地案内ならではの分かりやすさがあることに留意しながら取組を進めます。
視点	<b>4 広域連携</b>	南部地域、県全体など広域的な視点から取組を検討します。

## 2. 3 施策体系

本計画における施策体系を以下のとおり整理しました。

基本方針	施策	具体的な取組内容	取組を進める上での視点との関係			
			視点1 南城ツーリズムへの寄与	視点2 まちづくりとの連携	視点3 ICTの利活用	視点4 広域連携
基本方針1 使う	施策1. 市民、事業者、行政の意識の醸成および利用の実践	取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進	●	●		
		取組②：「ポタうま〜い」イベントの継続開催	●	●		
	施策2. 観光ニーズに対応したサービスの拡充	取組③：手ぶら観光の推進	●	●		●
		取組④：移動と観光のキャッシュレス対応、デジタルチケット等の導入	●	●	●	●
	施策3. 移動中や待ち時間の案内の充実、環境整備	取組⑤：バス車内、バス停等における観光案内等の充実	●	●	●	
		取組⑥：バス待ち環境に関する快適性の向上、環境整備	●	●	●	
		取組⑦：まちの美化活動の実施	●	●		
基本方針2 創る	施策4. 観光利用を意識した新たな交通の導入	取組⑧：那覇空港と南城市内を直接結ぶアクセス交通の導入による市内観光周遊の促進	●	●	●	●
		取組⑨：市内の観光資源を結ぶ観光交通の導入	●	●		●
	施策5. 環境にやさしいエコモビリティの導入	取組⑩：観光資源を回遊する小型EVやグリーンスローモビリティの導入	●	●		
		取組⑪：レンタサイクルの拡充	●	●		
	施策6. 自転車観光の推進	取組⑫：自転車観光の推進に必要な人材やサービス・設備等の導入	●	●		
取組⑬：観光ピーク期におけるパーク＆ライドの実施		●	●			
基本方針3 併せる	施策8. 観光と交通がセットになった商品やサービスの開発	取組⑭：周遊パスやバスパック等の開発	●	●	●	●
		取組⑮：ナイトツーリズムやウェルネスプログラムと連携した移動手段の構築	●	●		
		取組⑯：ツアーバスや観光タクシーの促進	●	●		●
	施策9. 観光MaaSの推進	取組⑰：最新のICT技術を活用したシームレスな観光交通の提供	●	●	●	●
		取組⑱：AIによる観光交通案内の導入	●	●	●	
取組⑲：ライドシェアや自動運転等の新しい仕組みや技術に対する調査研究	●	●	●			
基本方針4 魅せる	施策10. 観光交通に関する情報の見える化の推進	取組⑳：公共交通等による観光アクセス方法に関する表示の促進	●	●	●	
		取組㉑：観光2次交通情報に関するオープンデータ化の推進	●	●	●	
	施策11. 観光客向けの楽しみ方やモデルコース等の発信	取組㉒：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築	●	●	●	●
		取組㉓：「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」のプロモーション	●	●	●	
基本方針5 続ける	施策12. 観光交通の継続的な運用および改善	取組㉔：継続的な利用実態やニーズ調査	●	●	●	
		取組㉕：観光交通をオペレーションする組織や体制の構築	●	●		

## 2. 4 行政・関係団体・事業者・市民の協働

本計画は、委員会、ワーキングチームと様々な立場からの積極的な意見交換により、南城市の観光交通のこれからについて議論のうえ、策定しました。

これからは、全体的な観光振興・観光まちづくり同様にそれぞれの果たすべき役割をもって、連携・協働を図りながら、行政、関係団体、事業者、市民がひとつになって計画を推進していきます。

### 【各主体に期待される役割】

#### 行政（南城市）の役割

- 関係団体や事業者、市民との連携・情報共有による観光交通の発展に積極的に取り組みます。
- 観光交通に関する情報収集や調査研究を進め、その時代のニーズに対応したモビリティやサービスの導入を支援します。
- 国や県、周辺および全国の自治体と連携を図り、情報共有や発信を行います。
- 観光商工課、企画課を中心に庁内での連携により、観光交通インフラの整備を推進します。

#### 関係団体（観光協会、商工会等）の役割

- 観光交通の効果的な運用の中心的な役割を担います。
- 市や事業者等との連携体制を構築し、公共交通等による南城観光の魅力発信や利用促進のためのPR活動、サービス提供を行います。

#### 関連事業者（観光および交通等）の役割

- 観光交通の面より、観光客のニーズに対応した質の高いサービスの提供を行います。
- 公共交通等に関する情報発信や利用促進を積極的に行います。
- 市や関連団体と連携し、観光交通に係る取組に積極的に参加します。

#### 市民・市民団体の役割

- 南城市が掲げる観光交通の取組に関心を持ち、自分ごととして、積極的な公共交通等の利用や利用促進に努めます。

## 第3章 具体的な取組内容と推進体制

### 3. 1 具体的な取組内容

#### 基本方針1 使う

今ある公共交通等を観光客が快適に利用するために必要な改善、サービスの拡充、環境整備を進めます。その前提として、市民、事業者、行政にも意識醸成を図るとともに、観光客の視点に立ち、クルマ以外での移動を自分ごととしてできる範囲で実践してもらいます。

#### 施策1 市民、事業者、行政の意識の醸成および利用の実践

##### 取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進

- 市内において市民が公共交通等を活用し観光を楽しめるプログラムを構築し、市内観光を促進します。
- プログラムの構築にあたっては、「取組②：「ポタうま〜い」イベントの継続開催」で蓄積されたコース等を活用するとともに、Nバスミニツアーの実施など市民の市内観光を促進する取組を実施します。
- 市民ひとりひとりが観光客目線で公共交通等の活用方法を理解するとともに、地域の魅力を認識し、自信をもって案内ができるような環境を構築します。

## 取組②：「ポタうま〜い」イベントの継続開催

- 南城市内を公共交通や自転車でめぐり南城らしい魅力やコースを発掘することを企図した「ポタうま〜い」を継続的に開催します。
- イベントで蓄積されたコース等については、「取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進」におけるプログラムとして提供するとともに、「取組②：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築」に活用します。

### 《「ポタうま〜い」イベントの開催概要》

イベント内容	○イベントの参加者が、公共交通（路線バス、Nバス、タクシー、なんじいなど）や自転車を利用した周遊ルートを考え、実際に公共交通や自転車を利用して南城市内を周遊。 ○周遊後、周遊したルートや周遊している中で感じたこと（南城市の魅力、課題等）について発表し、南城らしい魅力や公共交通に対する課題、ニーズを参加者同士で意見交換。
参加者	○南城市内の観光関連事業者、南城市民、県内・県外・海外出身者
スケジュール	○年1回程度
成果の活用	○「取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進」におけるプログラムの構築 ○「取組②：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築」におけるモデルコースの構築 など

### 《これまでに実施した「ポタうま〜い」イベントの様子》



## 施策2 観光ニーズに対応したサービスの拡充

### 取組③：手ぶら観光の推進

○公共交通や自転車による観光を促進するため、手荷物の一時的預かりサービスの導入や、宅配サービスとの連携強化など、南城市内での手ぶら観光を推進します。

#### 《南城市内における手荷物一時的預かりサービスの実施（案）》

一時預かりサービスの提供施設案	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南城市役所内公共交通案内所カウンター</li> <li>○がんじゅう駅・南城（南城市観光協会）</li> <li>○安座真港乗船待合所 など</li> </ul>
一時預かりサービスの料金案	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中型サイズ（スーツケースなど）：600 円/日</li> <li>○大型サイズ（ダイビング機材や自転車など）：1,000 円/日</li> <li>※那覇空港における手荷物一時的預かりサービス（沖縄ヤマト運輸株式会社）を参考に設定</li> <li>※時間単位での料金設定も検討</li> </ul>

### 取組④：移動と観光のキャッシュレス対応、デジタルチケット等の導入

○公共交通等で南城市内を観光する旅行者がNバス等の乗車運賃や観光施設の入場券をキャッシュレスで支払える仕組みを導入します。

○乗車券と入場券がセットになったデジタルチケットの導入など、公共交通等による観光がお得になる仕組みを構築します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 3-8 乗継割引の導入検討」および「施策 5-5 市内 1 日乗車券の導入検討」と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

### 事例：移動と観光のキャッシュレス対応、デジタルチケット等の導入



出典：株式会社 SMBC 信託銀行 WEB サイト

スマホで購入！スマホで使う！デジタルフリーパス！

日光交通バス 2日乗車券

バスを使ってお得に観光！日光・鬼怒川を楽しもう！

何度でも乗り降りできて、使うほどお得。スマホで使えるバス2日間フリーパス登場！

国内でもスマートフォン等を活用した観光交通のデジタルチケット等の取組が進んでいる。（図は栃木県日光市の事例）

出典：jordangon株式会社 WEB サイト

### 施策3 移動中や待ち時間の案内の充実、環境整備

#### 取組⑤：バス車内、バス停等における観光案内等の充実

○N バスに設置されている車内サイネージを活用した観光情報の発信や、地元ガイドの活用による観光シーズンの車内アテンド（観光ガイドや各施設・場所等にちなんだクイズ等）等を実施します。

○また、観光地のバス停への周辺案内の掲示や必要に応じた案内サインの整備等を実施します。待ち時間に楽しめるよう表示内容や掲示方法（見た目）等の工夫を行います。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 4-2 多言語表示による公共交通情報の提供」と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

#### 事例：バス停周辺における観光案内等の充実

##### <Happy Bus 停プロジェクト（広島市）>

○バスは待ち時間が退屈・不便といったイメージを払拭し、バスの待ち時間を楽しく快適にすることでバス利用促進に繋げようと、学生のアイデアにより発足したプロジェクト。

○学生自ら外部からの資金を獲得し、「安佐動物公園の魅力発信」や「バス情報提供サービスの向上」、「快適な移動」の3つの柱に主眼をおいた取組を行っている。

動物園の来園者がバスを降りた瞬間から楽しむことが出来るよう、動物の見どころや豆知識を掲載したパネルを安佐動物公園バス停（あさひが丘方面）付近に設置。



出典：広島市安佐動物公園 報道資料

## 取組⑥：バス待ち環境に関する快適性の向上、環境整備

- 市役所等の乗継拠点において、より快適に過ごせるような工夫や、待ち時間に買い物や飲食ができるようなサービスを導入します。
- 安座真港、新原ビーチ、玉泉洞前、斎場御嶽入口、馬天入口など観光資源のある主要なバス停について現況調査を行い、上屋やベンチの設置、Wi-Fi の整備などバス待ち環境を整備します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 4-4 ハイグレードバス停の整備検討」と重複する内容が含まれるため、役割分担のもと取組を推進します。

## 取組⑦：まちの美化活動の実施

- バスや自転車等による観光では、地域との触れ合いが多くなるため、清掃活動、雑草除去など、沿道や地域の美化活動を推進し、景観的にも満足してもらえる観光地づくりを推進します。

## 基本方針 2 創る

滞在型の観光を促進し、点在する魅力ある資源を周遊・回遊するための新たな観光交通を導入します。持続可能な観光まちづくり、世界水準のウェルネス・カルチャーリゾートなど南城市の観光振興を支えます。

### 施策 4 観光利用を意識した新たな交通の導入

#### 取組⑧：那覇空港と南城市内を直接結ぶアクセス交通の導入による市内観光周遊の促進

- 現状、那覇バスターミナルから南城市への交通手段がある中で、観光客のニーズに対応できるよう那覇空港から南城市内への直通の交通手段を導入します。
- 空港からの直通交通の車内において、南城市到着後の周遊観光に係る魅力や観光交通情報をサイネージやパンフレット等により提供し、市内の観光周遊の促進につなげます。
- 令和 2 年 2 月末から 3 月にかけて実施予定の「南城市の観光振興に向けたオンデマンド交通と小型モビリティ等を活用した観光型 MaaS の実証実験」（スマートシャトル）の結果を踏まえた検討を行います。
- 南部東道路の整備状況・供用予定も踏まえて検討を進めます。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 1-2 市外への幹線バスの運行及び既存系統の見直し」と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

#### 事例：空港からのアクセス交通の導入による市内観光周遊の促進

##### <那覇空港・那覇市内周遊 One Two Smile シャトルバス（沖縄ツーリスト）>

- 那覇空港・那覇市内の主要宿泊施設・那覇市内の主要観光施設や主要施設近くで下車できるシャトルバスの実証を令和 2 年 2 月より実施。
- 1 日 1,480 円/人で乗り放題とし、観光施設の入場券、買い物券が付与されるとともに、観光情報の提供など周遊観光を促進する取組となっている。

One Two Smile シャトルバス

LANGUAGE

1日1,480円で乗り放題!

お得な!!

世界遺産 300円  
玉陵 相当  
入場料 電子マネー 付与

自由に 快適に

シャトルバス

One Two Smile Shuttle Bus!!

One Two Smile シャトルバス

便利に使って、  
お得に楽しもう

217  
運用開始!

那覇空港・那覇市内周遊「One Two Smile シャトルバス」

空港からホテル⇒首里城公園・玉陵⇒国際通りコース

ワンデー(1日利用) 1,480円/人

空港到着後、ホテルへチェックイン。荷物を置いて首里城公園や世界遺産玉陵へ。その後、国際通りにてショッピングや夕食、ホテルへ。

※タクシー利用の場合：約4,300円/台

那覇空港到着。予約していたシャトルバスに乗車。

那覇市内ホテルに向かいそのままチェックイン。

荷物を置いて首里城公園へ。

世界遺産玉陵も観光。

国際通りで、夕食やショッピングを楽しんだら、ホテルへ。

ホテルへ戻ってゆっくり。

出典：沖縄ツーリスト株式会社 WEB サイト

## 取組⑨：市内の観光資源を結ぶ観光交通の導入

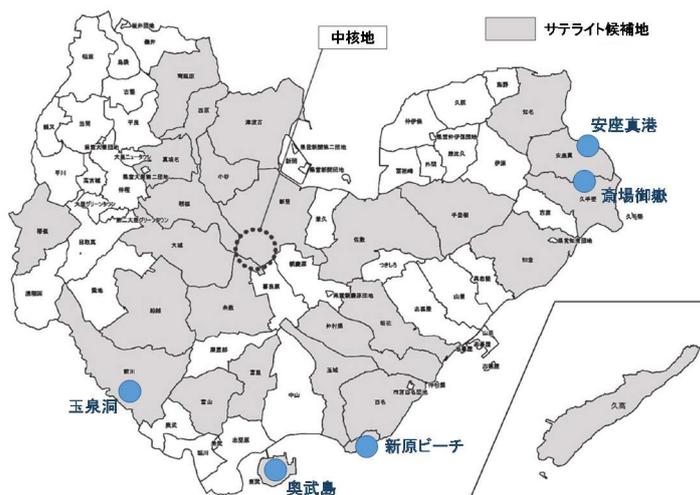
- 南城型エコミュージアムにおけるサテライトへのアクセスを確保するとともに、玉泉洞、奥武島、新原ビーチ、斎場御嶽、安座真港等の市内の観光資源を直接結ぶ観光周遊交通を導入します。
- 主要な観光地だけでなく、各地域の自然、歴史、文化等を踏まえた魅力的な資源を組み入れることで滞在型の観光を促進します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 5-4 遊覧バスの導入検討」と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

### 《市内の観光資源を結ぶ観光交通の導入イメージ》

<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南城型エコミュージアムのサテライトまでのアクセスを確保し、滞在型の観光を促進する。</li> <li>○現状、直接的に結ばれていない市内の観光地をつなぐ。</li> </ul>
<b>市内における具体的な導入イメージ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中核地（市役所）から安座真港、斎場御嶽、新原ビーチ、奥武島、玉泉洞を結ぶルートにエコミュージアムの取組が進む地域（サテライト候補地）を周遊するルートを構築する。</li> <li>○車両については、オープントップバスやラッピングバスなど見た目にも話題性のある車両の活用を検討する。</li> <li>○週末の実証運行からサービスを開始。利用者ニーズの把握によりサービスレベル等を検討する。</li> </ul>

#### ▼南城型エコミュージアムのサテライト候補地



#### ▼各サテライト候補地の将来像

旧市町村	サテライト候補地	将来像
佐敷	佐敷	尚巴志スピリットを受け継いだムラづくり
	新里	祈りと歴史、水と文化の豊かな里づくり
	小谷	小谷まーいで昔の暮らしを感じるムラづくり
	津波古	伝統芸能と健康長寿の港まちづくり
	手登根	アカバナタから広がるゆうゆうとうのムラおこし
大里	西原	グスクとともに培ってきた歴史や伝統を伝えるムラづくり
	南風原	地域ま〜いで内外の交流を深めるムラづくり
	大城	シンカヌチャーが楽しい、伝統で賑わう里づくり
	稲福	明るく、楽しく、元気よく、稲福の歴史文化がたなぐムラづくり
	真境名	シタを誇りに次世代へ文化を伝えるムラづくり
知念	稲嶺	伝統芸能で交流の和を広げる里づくり
	知名	華やかなり！ヌーパレーのムラづくり
	安座真	巨人伝説と海辺の芸術のムラづくり
	久手堅	観光客が立ち寄ってほっこりできるムラづくり
	知念	歴史文化を活用して区の発展に挑む観光むらづくり
玉城	久高	「神の島・久高島」団結の島建てに向け前進！
	百名	歩いて知る琉球はじまりの地づくり
	新原	海と聖地を誇りに、観光と共存するムラ
	仲村渠	どこか懐かしい景観をいかしたムラづくり
	埋花	水とともに長生きするムラづくり
	玉城	歴史ある獅子舞と玉城城跡を誇りに、自然とともに暮らす地域
	富里	ひと味違う歴史と癒しのムラづくり
	富山	祖先を敬い、伝統行事を大事にする地域
奥武	奥武観音堂を誇りに団結する島づくり	
前川	糸数	グスクとアプテラガマと集落をつなぐムラづくり
	船越	船越ウツカー活用からの交流ムラづくり
前川	住民が主体となったムラづくり	

出典：南城型エコミュージアム実施計画・各論 1・各論 2

## 施策5 環境にやさしいエコモビリティの導入

### 取組⑩：観光資源を回遊する小型EVやグリーンスローモビリティの導入

○バスを降りた後に徒歩以外で観光資源を回遊する観光交通等として、環境にやさしい小型EVやグリーンスローモビリティを導入します。

#### 《小型EVやグリーンスローモビリティの導入（案）》

<p>市内における具体的な導入イメージ</p>	<p>○斎場御嶽とがんじゅう駅・南城間のモビリティカートの導入          ○久高島をゆっくりと回遊可能なモビリティカートや小型EVの導入          ○電動バイクやキックボード等の導入検討 など</p>
<p>導入する車両のイメージ</p>	<p>▼e-com8（低速電動コミュニティビークル） ▼ヤマハ電動カート</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="475 797 919 1126">  <p>出典：株式会社シンクトゥギャザーWEB サイト</p> </div> <div data-bbox="940 797 1406 1126">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="475 1155 919 1323"> <p>○最高速度 19km/h という低速で走行する 10 人乗り電動自動車。              ○群馬県桐生市や富山県黒部市（宇奈月温泉）、東京都豊島区（池袋）等で導入されている。</p> </div> <div data-bbox="940 1155 1406 1323"> <p>○ゴルフカートをベースとした電動小型低速車両、定員 7 名。              ○県内ではうま市に車両があり、開発可能な企業が集積している。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">▼小型EV モビリティ</p> <div data-bbox="722 1408 1166 1715">  <p>出典：NEC ソリューションイノベータ報道発表資料</p> </div> <div data-bbox="722 1731 1166 1877"> <p>○二人乗りの小型モビリティ。              ○観光地内の回遊などバスを降りた後のラストワンマイルの観光交通としての活用が想定される。</p> </div>

## 施策6 自転車観光の推進

### 取組⑪：レンタサイクルの拡充

○市役所や百名、奥武島など拠点となる場所や回遊手段が不便なエリアへレンタサイクルを拡充します。どこのサイクルポートでもレンタル・返却が可能なコミュニティサイクルとしての運用やシステム構築を検討します。

○N バスや路線バスの車内、船舶内に持ち込むことができ、バスや船舶と組み合わせた利用が可能な折りたたみタイプのレンタサイクル導入についても検討します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 5-3 レンタサイクルの導入検討」と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

#### 《レンタサイクルの拡充のイメージ》

貸し渡し 返却場所案	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南城市役所（交通結節点）</li> <li>○がんじゅう駅・南城（現状もレンタサイクルを実施）</li> <li>○百名エリア（N バスが東西のルートで分かれるエリア）</li> <li>○奥武島（エリア内の周遊が不便）</li> <li>○久高島（現状もレンタサイクルを実施）</li> </ul>
運用イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どこのサイクルポートでもレンタル・返却が可能なコミュニティサイクルとしての運用を検討。</li> <li>○運用に必要なシステムやソフトについて、検討・開発するとともに実施体制を構築。</li> </ul>
車両イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多彩な自転車のタイプを準備し、観光客のニーズに合ったレンタサイクルができることが望ましい。</li> <li>○その中でバスや船舶と組み合わせた利用が可能な折りたたみタイプの自転車についても導入を検討。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">折りたたみタイプの自転車の活用</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">N バスの車内への持ち込み</p>  </div> </div>

## 取組⑫：自転車観光の推進に必要な人材やサービス・設備等の導入

- 自転車観光を推進する上で、観光客を対象に南城市内を自転車で案内できるサイクリングガイドを育成します。
- サイクルステーション等の自転車観光の拠点となる設備の導入や、サイクルバスの開発(キャリアを外付けできるタイプ等)、自転車走行空間の確保について検討を進めます。
- 市内の飲食施設と連携し、サイクリストだけが特典を受けられるなど、サイクリストを対象としたサービスを検討します。

### 事例：自転車観光の推進のための設備やサービスなど

- サイクルバス(伊豆市)
- 周辺施設と連携したサイクリストへの特典(四国一周サイクリング)



出典:東海バス WEB サイト

- バス1台につき2台の自転車を載せることが可能。
- 静岡県(伊豆市)や愛媛県(松山市)等で導入されている。



おもてなしサポーター認定証 店舗貼りステッカー 卓上スタンド

- 「おもてなしサポーター」として認定されている宿泊施設や飲食施設等では、サイクリストを対象に宿泊代割引や飲食代割引等のサービスを提供している。
- 「おもてなしサポーター」の申請を促進するため、施設等へのインセンティブとして、ステッカー等を配布し、専用ページにて施設の情報を掲載している。



出典:四国一周サイクリング WEB サイト

## 施策7 観光パーク&ライドの実施

### 取組⑬：観光ピーク期におけるパーク&ライドの実施

- 夏休み等の観光ピーク期には、市内の観光施設等の駐車場が満車となる状況がみられるため、市役所に隣接された観光振興拠点施設(公共駐車場)や市内の公共施設等を活用し、パーク&ライドを実施します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策3-3 公共駐車場でのパーク&バスライドの実施」(市民向け)と関連する内容のため、連携して取組を推進します。

#### 《公共駐車場等を活用した観光ピーク期におけるパーク&ライドの実施(案)》

前提	○平日は市民がパーク&ライド駐車場として使用していることを想定。 ○土日祝日は市民の通勤等の利用が少ないと考えられることから観光客向けに活用を検討。
実施イメージ	○市外からの来訪者に公共駐車場を開放。 ○その後の移動はNバスなどを活用いただき、目的地まで向かっていただく(往復のNバス乗車券を配布することも検討)。
実施時期	○ゴールデンウィーク ○8月など夏季ピーク時期の土日祝日

## 基本方針3 併せる

観光と交通がセットになった商品やサービス等を開発します。最新の ICT 技術を積極的に取り込み、ストレスフリーでシームレスな観光と交通のパッケージ化を推進します。

### 施策8 観光と交通がセットになった商品やサービスの開発

#### 取組⑭：周遊パスやバスパック等の開発

- 観光施設の入場券とバス、レンタサイクル等の移動手段（費用）、宿泊施設料金等をパッケージとし、個別に支払うよりも便利にお得に観光できる周遊パスや路線バスパックについて開発します。
- 南部地域など隣接市町も含めたパッケージのニーズが高いと考えられるため、広域での展開についても検討します。

#### 事例：バスパックによるお得なサービスの提供・バス観光の促進

○日帰り路線バスパック（十勝バス）

○十和田市現代美術館バスパック（八戸市）



出典：十勝バス



出典：八戸市

- 観光施設の入場料とバスの往復乗車券等がセットになったパック。
- 北海道（十勝・帯広）や青森県（八戸）でバス観光促進の一環として取り組まれている。

## 取組⑮：ナイトツーリズムやウェルネスプログラムと連携した移動手段の構築

○第2次南城市観光振興計画における「取組⑳：ナイトツーリズムの推進」や「取組㉓：ウェルネスプログラムの拡充」と連携した移動手段を構築します。

○シーズンダイヤ（運行本数の増便や遅い時間まで運行等）や、飲食店と宿泊施設間の送迎の仕組みなどナイトライフや早朝のウェルネスプログラムを楽しんでもらうための移動手段を検討します。

### 事例：ナイトツーリズムに対応したバスの導入

#### ○金沢ライトアップバス

出典：北陸鉄道株式会社 WEB サイト

○石川県金沢市では、毎週土曜日と特別運行日の夜に「金沢ライトアップバス」が運行しており、金沢市内の主なライトアップスポット周辺のバス停 16ヶ所を巡回することができる。  
○日本語のパンフレットと英語のパンフレットを作成し、国内の観光客だけではなく、海外の観光客への案内も行っている。

## 取組⑯：ツアーバスや観光タクシーの促進

○旅行会社等と連携し、南城市内を効果的に観光したい方のためのツアーバスの開発を促進します。また、タクシー事業者と連携し、観光タクシーの利用を促進します。

## 施策9 観光 MaaS の推進

### 取組⑰：最新の ICT 技術を活用したシームレスな観光交通の提供

- ON バス、路線バス、久高海運、おでかけなんじい、自転車、タクシー、馬（与那国馬）などの多様な交通手段や観光地の検索、運賃や入場料の支払い等がスマートフォンひとつで可能なデータ整備、システム開発を行います。
- ラストワンマイルの移動ニーズに対応するとともに、市外のモノレールやレンタカーとの連携も検討し、旅行中のシームレスな乗継・サービスを提供できるよう検討します。
- バス停周辺のお店と連携したお得情報の配信など利用者の利便性が高く地域消費にも寄与する機能や、SNS との連携機能、バス運転手の評価機能（評価の高い運転手を表彰等）、観光客の行動データの取得機能などについても検討します。
- レンタカー観光が多い現状を鑑み、レンタカー利用者が駐車場の空き情報を把握できるようなサービスについても検討します。駐車場を探すうろつき等の不要な運転を減らすとともに、次回来訪時のレンタカー以外の観光につなげるよう設計します。

### 取組⑱：AI による観光交通案内の導入

- 南城市観光協会や地元のガイド等との連携・協力のもと、観光客からのよくある質問や回答を、南城市の観光交通案内データベースとして蓄積します。
- このデータベースを活用できる AI チャットボットを立ち上げ、ノウハウや回答スキルを市内全域に広げ、観光客の満足度向上につなげます。

### 取組⑲：ライドシェアや自動運転等の新しい仕組みや技術に対する調査研究

- 海外でサービスが進んでいる Uber に代表されるライドシェアの導入可能性について調査研究を進めます。現時点では国内の法規制の関係で導入できないものの、規制緩和や法改正に向けた検討が政府において進められているため、動向を確認しながら検討を進めます。
- また、来るべき自動運転社会の到来に向けた動向把握や対応方法の調査研究を進めます。

## 基本方針 4 魅せる

観光交通に関する情報の見える化を推進するとともに、公共交通や自転車ならではの南城観光の楽しみ方やレンタカーでは体験できない南城観光の魅力を発信します。

### 施策 10 観光交通に関する情報の見える化の推進

#### 取組⑳：公共交通等による観光アクセス方法に関する表示の促進

○現状、市内の観光関連施設の Web サイトやイベント時の情報媒体等に公共交通によるアクセス方法の記載がないことがあるため、南城市観光協会や地元ガイド等との連携・協力のもと、公共交通によるアクセス方法の表示を推進します。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 5-1 観光客への公共交通に関する情報提供の実施」と重複する内容が含まれるため、役割分担のもと取組を推進します。

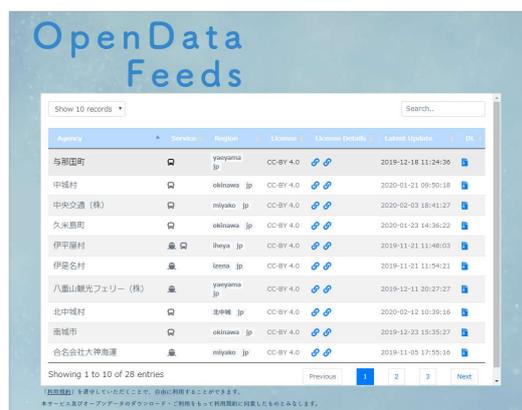
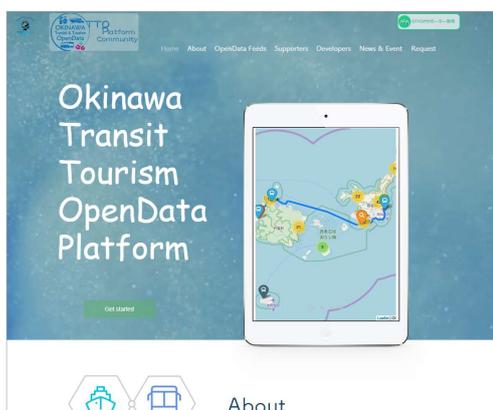
#### 取組㉑：観光 2 次交通情報に関するオープンデータ化の推進

○Google 等の大手検索サイトや地図アプリ、経路検索サービス、観光情報等のとりまとめサイトにおいて、公共交通での市内観光地への経路検索が可能となるよう市内観光 2 次交通情報のオープンデータ化を推進します。

○バスの現在地情報や遅れ情報などの動的情報も対象に取組を推進します。

○Okinawa Transit and Tourism Opendata Platform (OTTOP) の活動と連携した取組を実施します。

#### 《沖縄観光 2 次交通オープンデータプラットフォーム (OTTOP)》



沖縄県内全域の公共交通情報や地域の保有する観光情報を対象に、Google 等へ大手検索サイトや経路検索サービスがデータを取り込みやすい形式でのオープンデータを整備

出典：Okinawa Transit and Tourism Opendata Platform (<https://www.ottop.databed.org/>)

## 施策 11 観光客向けの楽しみ方やモデルコース等の発信

### 取組②：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築

- 観光地にアクセスするバス情報や観光施設、宿泊施設、飲食店等の情報、公共交通等を利用した観光モデルコース等を掲載した情報媒体を制作します（例：観光客向けNバスマップの作成等）。
- また、公共交通や自転車ならではの南城観光の楽しみ方やレンタカーでは体感できない南城観光の魅力等についてプロモーション動画等としてとりまとめ、発信を行います。
- シニア層や女子旅、欧米系の外国人など公共交通等による滞在型の観光が適しそうなターゲットを設定するとともに、ターゲットに応じた情報発信を行います。

※「南城市地域公共交通網形成計画」の「施策 5-1 観光客への公共交通に関する情報提供の実施」と重複する内容が含まれるため、役割分担のもと取組を推進します。

### 《公共交通や自転車を活用したモデルコースのイメージ》



あなたの知らない沖縄の“ローカル”な世界へ

## 公共交通機関を利用した 沖縄・離島のモデルコース12選

あえて公共交通機関を利用して、ゆったりと気の向くままに南国・沖縄旅を満喫できるモデル

ルート案⑤：波照間島で絶景のハテルマブルーと満天の星空を



3つのおすすめポイント

- 日本最南端の有人島・波照間島へ

レンタサイクルで波照間島を周遊  
絶景の「ニシ浜」で夕日鑑賞

時期	主な移動手段	対象	目安時間
通年	船 徒歩 自転車	女子旅	一日

コースの概略

START

- 01 乗り換え 石垣空港から「石垣港離島ターミナル」へ
- 02 宿泊 波照間島の宿に宿泊
- 03 アクティビティ レンタサイクルで波照間島を周遊
- 04 自然 「ニシ浜」で海遊び&夕日鑑賞
- 05 自然 波照間島で星空観察

公共交通や自転車を活用したモデルコースを掲載し、公共交通や自転車ならではの観光の楽しみ方を PR

出典：たびらいWEB サイト（公共交通機関を利用した沖縄・離島のモデルコース 12 選）

### 取組⑳：「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」のプロモーション

- 観光交通の取組を推進する前提として、南城観光の目指すべき「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」に向けたプロモーションを推進します。
- 上記のような持続可能な観光、滞在型の観光の PR を進めるなかで、本計画の取組の推進により導入される多様なモビリティの周知や、公共交通や自転車だからこそ体感できる南城観光の魅力について効果的に発信します。

## 基本方針5 続ける

観光交通の利用実態やニーズを把握するための継続的な調査を実施します。また多様なニーズに対応したモビリティをオペレーションする体制を構築します。

### 施策12 観光交通の継続的な運用および改善

#### 取組⑭：継続的な利用実態やニーズ調査

- 現状、バスで訪れている観光客に「市内をバスで巡って楽しかった」と感じてもらうことは、リピーターの確保、口コミによる新規顧客の獲得の視点から重要となります。
- そのため、観光交通に関する利用実態、ニーズ把握のための調査を継続的に実施します。
- 取得したデータを分析し、観光ニーズにあった路線やダイヤの提案につなげます。

#### 《調査の実施概要（案）》

<p><b>調査方法</b></p>	<p>○公共交通の車内や宿泊施設等にアンケートの回答を依頼するカードなどを掲示する。</p> <p>○QRコードを読み取っていただき、スマートフォンなどでアンケートに回答いただく。</p> <p>▼カードのイメージ図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p><b>設問項目</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本属性（年齢、性別、居住地、旅行行動、南城市の訪問経験など）</li> <li>○交通手段、交通手段の選択理由、公共交通の利用意向</li> <li>○南城市を訪れたきっかけ（公共交通が便利だから など）</li> <li>○南城市における観光交通に対する満足度、課題やニーズ など</li> </ul>
<p><b>調査結果の活用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光シーズン向けのダイヤの運行の拡充</li> <li>○飲酒後にバスで帰宅できるような夜間時間帯の運行の拡充 など</li> </ul>

#### 取組⑮：観光交通をオペレーションする組織や体制の構築

- 「施策9 観光 MaaS の推進」をはじめとした本計画における施策を実施するうえでは、多様なニーズに対応した観光交通を効果的にオペレーションし続けることが重要となります。
- 観光交通を効果的にオペレーションするモビリティ・オペレーターの役割や、必要な組織・体制について検討し、構築します。

### 3. 2 各主体の取組への関わり

本計画の取組に対する各主体の関わりを以下のとおり整理しました。

基本方針	施策	具体的な取組内容	取組への関わり			
			行政	関係団体	関連事業者	市民
基本方針1 使う	施策1. 市民、事業者、行政の意識の醸成および利用の実践	取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進	○ プログラム構築の支援	◎ プログラムの構築	◎ プログラムの構築	○ 積極的に参加
		取組②：「ポタうま〜い」イベントの継続開催	○ 開催の支援	◎ 開催	○ 積極的に参加	○ 積極的に参加
	施策2. 観光ニーズに対応したサービスの拡充	取組③：手ぶら観光の推進	○ 調整・支援	○ 支援	◎ サービスの提供	○ サービスの活用
		取組④：移動と観光のキャッシュレス対応、デジタルチケット等の導入	○ 調整・支援	○ 支援	◎ 交通事業者によるサービスの導入	○ サービスの活用
	施策3. 移動中や待ち時間の案内の充実、環境整備	取組⑤：バス車内、バス停等における観光案内等の充実	◎ 道路管理者との調整 ハード面の整備	○ 支援	◎ 案内等の実施	○ 市民視点からの 情報提供
		取組⑥：バス待ち環境に関する快適性の向上、環境整備	◎ 道路管理者との調整 ハード面の整備	○ 支援	○ 交通事業者による 環境の維持・運用	○ 市民視点からの 情報提供
		取組⑦：まちの美化活動の実施	○ 支援	◎ 美化活動のとりまとめ	○ 支援	◎ 地域のルール作り
基本方針2 創る	施策4. 観光利用を意識した新たな交通の導入	取組⑧：那覇空港と南城市内を直接結ぶアクセス交通の導入による市内観光周遊の促進	○ 事業者との情報共有 導入検討	○ 支援	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの 意見聴取
		取組⑨：市内の観光資源を結ぶ観光交通の導入	○ 事業者との情報共有 導入検討	○ 支援	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの 意見聴取
	施策5. 環境にやさしいエコモビリティの導入	取組⑩：観光資源を回遊する小型EVやグリーンスローモビリティの導入	○ 事業者との情報共有 導入検討	○ 支援	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの 意見聴取
		取組⑪：レンタサイクルの拡充	○ 事業者との情報共有 導入検討	○ 支援	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの 意見聴取
	施策6. 自転車観光の推進	取組⑫：自転車観光の推進に必要な人材やサービス・設備等の導入	◎ サイクルバスの 開発・導入検討	◎ サイクリングガイドの 人材育成	◎ サイクリストへの サービスの提供	○ 市民視点からの 意見聴取
		施策7. 観光パーク&ライドの実施	取組⑬：観光ピーク期におけるパーク&ライドの実施	◎ とりまとめ	○ 取組のPR	○ 支援

基本方針	施策	具体的な取組内容	取組への関わり			
			行政	関係団体	関連事業者	市民
基本方針3 併せる	施策8. 観光と交通がセットになった商品やサービスの開発	取組⑭：周遊バスやバスパック等の開発	○ 調整・支援	○ 支援	◎ 交通事業者によるサービスの開発	○ 市民視点からの意見聴取
		取組⑮：ナイトツーリズムやウェルネスプログラムと連携した移動手段の構築	○ 交通事業者と連携調整・支援	○ 情報発信	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの意見聴取
		取組⑯：ツアーバスや観光タクシーの促進	○ サービスの促進調整・支援	○ 支援	◎ サービスの提供	○ 市民視点からの意見聴取
	施策9. 観光 MaaS の推進	取組⑰：最新の ICT 技術を活用したシームレスな観光交通の提供	○ 調整・支援	◎ サービスの運用	◎ システム等の開発	○ サービスの活用
		取組⑱：AI による観光交通案内の導入	○ 調整・支援	◎ サービスの運用	○ 積極的な活用	○ サービスの活用
		取組⑲：ライドシェアや自動運転等の新しい仕組みや技術に対する調査研究	◎ 調査研究	○ 勉強会等への参加	○ 勉強会等への参加	-
基本方針4 魅せる	施策10. 観光交通に関する情報の見える化の推進	取組⑳：公共交通等による観光アクセス方法に関する表示の促進	○ 調整・支援	◎ イベント等での広報	◎ Web サイトでの案内	○ 地域のイベントとの連携
		取組㉑：観光2次交通情報に関するオープンデータ化の推進	○ 調整・支援	◎ オープンデータ化の推進	◎ オープンデータ化の推進 利用活用	○ 地域の情報の提供
	施策11. 観光客向けの楽しみ方やモデルコース等の発信	取組㉒：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築	○ 調整・支援	◎ コースの検討 制作・情報発信	○ 支援	○ 地域の情報の提供
		取組㉓：「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」のプロモーション	○ 調整・支援	◎ プロモーションの検討 制作・情報発信	○ 支援	○ 地域の情報の提供
基本方針5 続ける	施策12. 観光交通の継続的な運用および改善	取組㉔：継続的な利用実態やニーズ調査	◎ 調査の実施	◎ 調査の実施	○ 支援	○ 市民視点からの意見聴取
		取組㉕：観光交通をオペレーションする組織や体制の構築	○ 調整・支援	◎ 体制の検討・構築	○ 支援	-

### 3. 3 ロードマップ（実施スケジュール）

基本方針、施策に基づいた具体的な取組内容の実施スケジュールを以下のとおり整理しました。

基本方針	施策	具体的な取組内容	実施スケジュール			
			令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5-9年度 (2023-2027年度)
基本方針1 使う	施策1. 市民、事業者、行政の意識の醸成および利用の実践	取組①：市民の公共交通等による市内観光の促進	プログラム構築／市民の市内観光の促進			
		取組②：「ポタうま〜い」イベントの継続開催	継続的なイベントの開催			
	施策2. 観光ニーズに対応したサービスの拡充	取組③：手ぶら観光の推進	検討・調整	実証	サービス化	
		取組④：移動と観光のキャッシュレス対応、デジタルチケット等の導入	検討・調整	実証	サービス化	
	施策3. 移動中や待ち時間の案内の充実、環境整備	取組⑤：バス車内、バス停等における観光案内等の充実	順次実施			
		取組⑥：バス待ち環境に関する快適性の向上、環境整備	検討・調整	順次実施		
		取組⑦：まちの美化活動の実施	継続的な実施			
基本方針2 創る	施策4. 観光利用を意識した新たな交通の導入	取組⑧：那覇空港と南城市内を直接結ぶアクセス交通の導入による市内観光周遊の促進	実証		サービス化	
		取組⑨：市内の観光資源を結ぶ観光交通の導入	実証		サービス化	
	施策5. 環境にやさしいエコモビリティの導入	取組⑩：観光資源を回遊する小型EVやグリーンスローモビリティの導入	実証		サービス化	
		取組⑪：レンタサイクルの拡充	実証		サービス化	
	施策6. 自転車観光の推進	取組⑫：自転車観光の推進に必要な人材やサービス・設備等の導入	検討・調整	実証	サービス化	
		施策7. 観光パーク&ライドの実施	取組⑬：観光ピーク期におけるパーク&ライドの実施	実証		サービス化
	基本方針3 併せる	施策8. 観光と交通がセットになった商品やサービスの開発	取組⑭：周遊バスやバスパック等の開発	検討・調整		サービス化
取組⑮：ナイトツーリズムやウェルネスプログラムと連携した移動手段の構築			検討・調整	実証	サービス化	
取組⑯：ツアーバスや観光タクシーの促進			継続的な促進活動			
施策9. 観光MaaSの推進		取組⑰：最新のICT技術を活用したシームレスな観光交通の提供	検討・調整	実証	サービス化	
		取組⑱：AIによる観光交通案内の導入	検討・調整	実証	サービス化	
		取組⑲：ライドシェアや自動運転等の新しい仕組みや技術に対する調査研究	継続的な調査研究			
基本方針4 魅せる	施策10. 観光交通に関する情報の見える化の推進	取組⑳：公共交通等による観光アクセス方法に関する表示の促進	順次実施			
		取組㉑：観光2次交通情報に関するオープンデータ化の推進	順次実施			
	施策11. 観光客向けの楽しみ方やモデルコース等の発信	取組㉒：観光客に向けた情報媒体の制作やモデルコースの構築	検討・調整	媒体・モデルコース制作等		
		取組㉓：「暮らすような旅を楽しめるまち／世界水準のウェルネス・カルチャーリゾート南城」のプロモーション	検討・調整	プロモーション実施		
		取組㉔：継続的な利用実態やニーズ調査	継続的な調査実施			
基本方針5 続ける	施策12. 観光交通の継続的な運用および改善	取組㉕：観光交通をオペレーションする組織や体制の構築	検討・調整・試行		運用	

--->：計画・調整・検討段階      →：実施段階

### 3. 4 取組の効果を検証するための指標（KPI）

#### （1）前提（第2次南城市観光振興計画への寄与）

本計画に基づく観光交通の取組により、第2次南城市観光振興計画の3つの目標を計測するための11の指標の目標水準達成に寄与するものと考えられます。

そのため、第2次南城市観光振興計画の進行管理にあたっては、本計画に基づく取組の影響を加味するものとします。

#### ▼第2次南城市観光振興計画における指標

区分	指標
目標1 市民が誇りや豊かさを実感する 観光まちづくりを推進する	①市民の観光振興による経済効果の実感
	②市民の観光振興によるまちの活気の実感
	③市民が「南城市を県外の人に紹介したいか」について
	④域内調達率（宿泊施設の資材、お土産等）
目標2 南城市の持つ多様な資源を活用し、 魅力の強化を図る	⑤来訪者の滞在日数
	⑥来訪者の訪問箇所数
	⑦入込観光客数
	⑧1人あたり観光消費額（県外客）
目標3 南城市の魅力を発信し、共感してもらおう （=好きになってもらう）	⑨南城市観光ポータルサイト「らしいね南城」の年間PV数
	⑩南城市 Facebook のフォロワー数
	⑪人口社会増減率（（転入者数-転出者数）/総人口）

出典：第2次南城市観光振興計画

## (2) 本計画の進行を管理するための指標 (KPI)

第2次観光振興計画における11の指標とは別に、以下の4つの項目について本計画の進行を管理するための指標として設定し、本計画で目指す観光交通の取組が順調に進んでいるかを測る目安とします。

### ▼本計画における指標 (KPI)

指標	内容	把握方法
①観光交通の利便性向上による観光客の増加	観光交通の利便性が向上したことにより、公共交通等を利用して南城市を訪れる国内外の観光客が増加したか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画の「取組⑳：継続的な利用実態やニーズ調査」において把握</li> </ul>
②市民・観光客の移動手段に対する満足度	市民や国内外の観光客へ移動手段に対する満足度を調査し、観光ニーズにあった観光交通環境となっているかを確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画の「取組⑳：継続的な利用実態やニーズ調査」において把握 (市民については、第2次南城市観光振興計画の目標水準把握のためのアンケート調査時にあわせて把握)</li> </ul>
③市民・観光客の移動手段の分担率	市民や国内外の観光客への移動手段に関する調査結果より、レンタカーからその他の移動手段への転換の度合いを確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画の「取組⑳：継続的な利用実態やニーズ調査」において把握 (市民については、第2次南城市観光振興計画の目標水準把握のためのアンケート調査時にあわせて把握)</li> </ul>
④公共交通等の利用者数	Nバス、路線バス、レンタサイクル等の利用者数について、各事業者の協力のもと把握し、その増減について上記の指標とあわせて考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業者のデータより利用者数を把握</li> </ul>

各取組の実施時には、効果を把握するための指標を設定し、個別の取組効果についても把握することとします（例：各サービスの利用者数、Webサイトへのアクセス数等）。

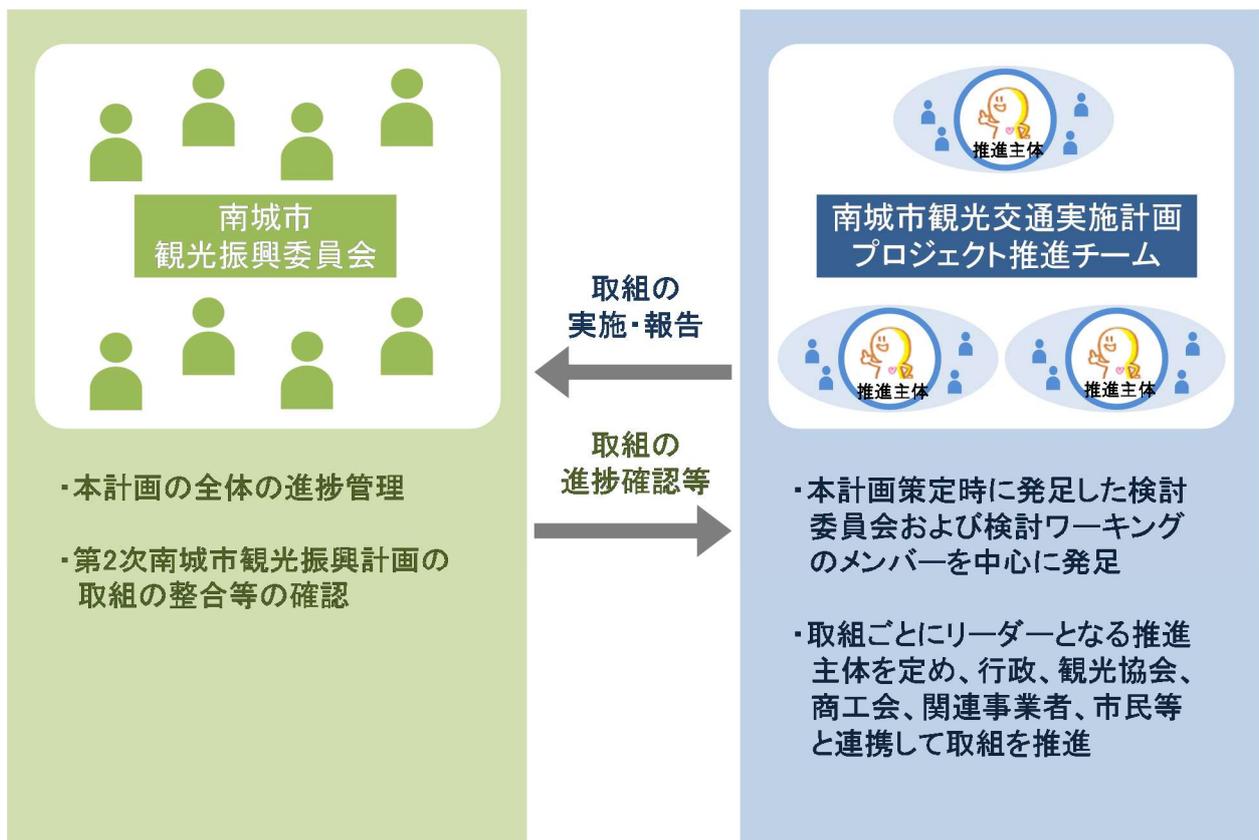
### 3. 5 プロジェクトの推進体制

#### (1) 計画管理・推進体制

本計画は第2次南城市観光振興計画の実施計画であるため、計画全体の進捗管理は「南城市観光振興委員会」で行うものとします。

各取組の推進にあたっては、本計画策定時に発足した検討委員会および検討ワーキングのメンバーを中心に、南城市観光振興委員会の決定に基づき、取組ごとにプロジェクト推進チームを発足します。取組ごとにリーダーとなる推進主体を定め、行政、観光協会、商工会、関連事業者、市民等と連携して取組を進めてきます。南城市観光振興計画への報告を適宜行い、その評価結果を踏まえながら更に質の高い取組を目指します。

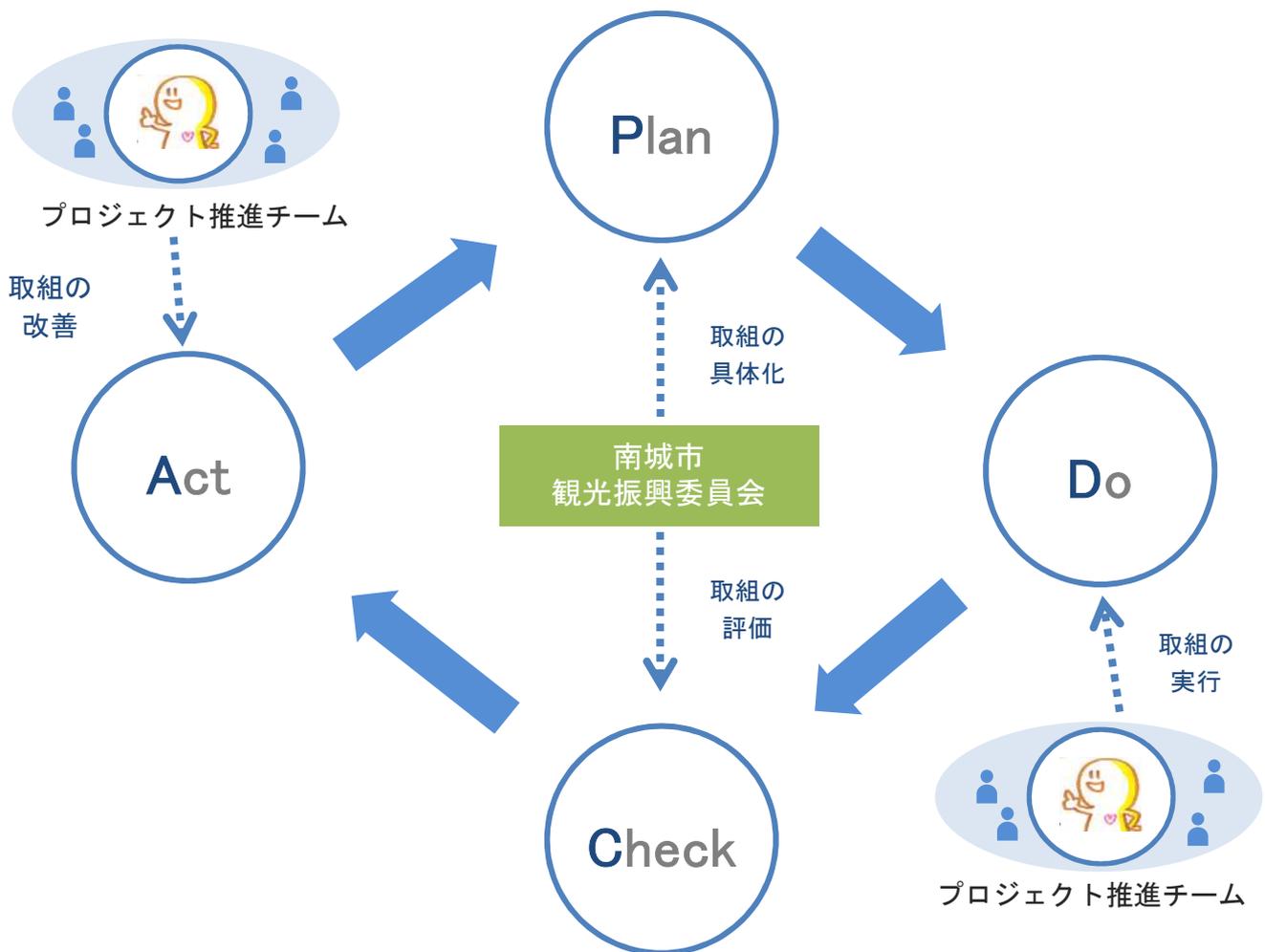
#### ▼本計画の計画管理・推進体制の考え方



## (2) 進行管理

本計画を推進するためにPDCA マネジメントサイクルの考え方のもとで計画の進行管理を行います。PDCA マネジメントサイクルとは、計画（Plan）→実行（Do）→確認（Check）→改善（Act）という一連のプロセスを回すことで、取組を効率的、効果的に実施するための手法です。本計画に当てはめると、以下の図のようになります。このPDCA マネジメントサイクルを用いて、南城市観光振興委員会とプロジェクト推進チームのもと、取組を進めていきます。

### ▼本計画における PDCA マネジメントサイクルの考え方



# 南城市観光交通実施計画

令和2年2月

発行：南城市 企画部 観光商工課

編集・協力：株式会社オリエンタルコンサルタンツ

